

株式会社SBI証券

決算説明資料

～ 2012年3月期 上半期 ～

2011年10月26日

株式会社SBI証券

本資料に掲載されている事項は、当社のご案内の他、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、当社は本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なく変更または廃止される場合がありますので、予めご承知おきください。

1. 決算概況

1. 決算概況

(1)2012年3月期 上半期 連結業績①

－ 決算ハイライト －

■ マーケット環境の低迷により、収益が減少し、前年同期比で減収減益。

(単位: 百万円、%)

	2011年3月期 上半期 (2010年4月～2010年9月)	2012年3月期 上半期 (2011年4月～2011年9月)	前年同期比 増減率
営業収益	22,117	20,285	▲8.3
純営業収益	20,300	18,620	▲8.3
営業利益	5,393	3,957	▲26.6
経常利益	5,362	3,997	▲25.4
中間純利益	4,829	3,153	▲34.7

1. 決算概況

(1)2012年3月期 上半期 連結業績②

主要オンライン証券の連結業績比較

(単位: 百万円、%)

	営業収益	前年同期比 増減率	中間純利益	前年同期比 増減率
SBI	20,285	▲8.3	3,153	▲34.7
マネックス(※1)	14,487	+14.2	963	▲39.8
楽天(連結)(※2)	10,427	▲10.2	1,821	▲29.6
松井	8,976	▲18.6	2,240	▲32.2
カブドットコム(非連結)	6,482	▲7.7	849	▲42.9

※1 当第2四半期より、TradeStation社(米国)の数値を連絡対象に含む

※2 前年については、楽天証券単体の数値にて計算

出所: 各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

1. 決算概況

(2)四半期毎の連結業績推移

－ ハイライト －

(単位:百万円、%)

	2011年3月期						
	第1四半期 (10年4～6月)	第2四半期 (10年7～9月)	第3四半期 (10年10～12月)	第4四半期 (11年1～3月)	第1四半期 (11年4～6月)	第2四半期 (11年7～9月)	前四半期比 増減率
営業収益	11,950	10,166	10,029	11,930	10,008	10,277	+2.7
純営業収益	10,964	9,335	9,154	10,968	9,278	9,342	+0.7
営業利益	3,468	1,925	1,384	3,118	1,847	2,110	+14.2
経常利益	3,607	1,754	1,401	2,940	1,913	2,084	+9.0
四半期 純利益	※ 3,900	928	873	2,928※	1,956	1,197	▲38.8

※ 金融商品取引責任準備金戻入にて2011年3月期 第1Qに特別利益に2,022百万円計上、2012年3月期 第1Qに767百万円計上

1. 決算概況

(3)2012年3月期 上半期 連結決算のポイント

1. 委託手数料収入・・・前年同期比約7.4%減の7,456百万円

- 委託売買代金は前年同期比約13.4%減の18兆7,536億円。手数料率は前年同期比0.3ポイント増加の3.9ベース。
- 個人委託売買代金における当社シェア(2012年3月期 上半期)については34.0%。
- 総合口座数2,305,906口座(2011年9月末現在)。

2. 金融収益・・・前年同期比約 7.8%減の6,125百万円

- 金融収支は前年同期比約7.4%減の4,501百万円。
- 信用口座数234,848口座(2011年9月末現在)、当期累計で6,288口座(月間平均1,048口座)獲得。

3. 引受・募集・売出手数料・・・前年同期比約9.3%減の882百万円

- 投資信託販売が堅調に推移。販売手数料は前年同期比約6.7%増の779百万円。
- 2012年3月期 第2四半期累計の上場社数12社(2社延期は除く)のうち、当社引受社数は8社。(引受関与率 66.6%)

4. トレーディング損益・その他収入・・・前年同期比約9.7%減の5,821百万円

- 2011年8月1日からのFX取引に係るレバレッジ規制(25倍)の影響は限定的で、売買代金は2011年8月に過去最高を記録。但し、スプレッドの縮小等により収益は減少。
- 外貨建債券の販売金額が前年同期比で約16.0%減少。

5. 販売費・一般管理費・・・前年同期比約1.6%減の14,662百万円

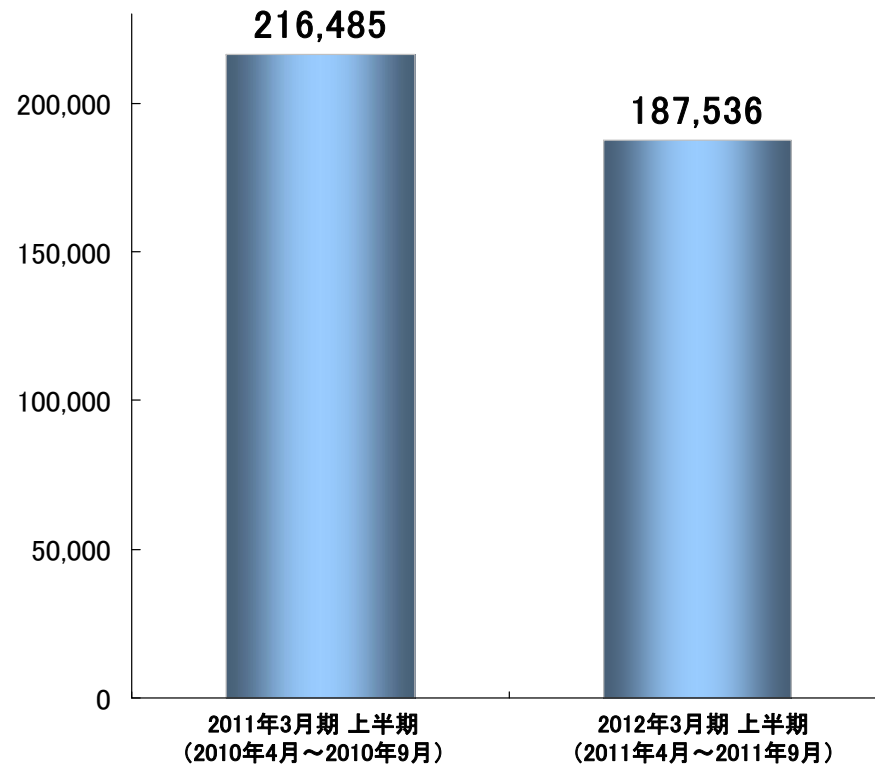
1. 決算概況

(4)委託手数料①

■ 長引く欧州の財政不安や長期化した円高等などを背景に低迷するマーケット環境が続き、株式委託売買代金は約13.4%減少、委託手数料収入は約7.4%減少。

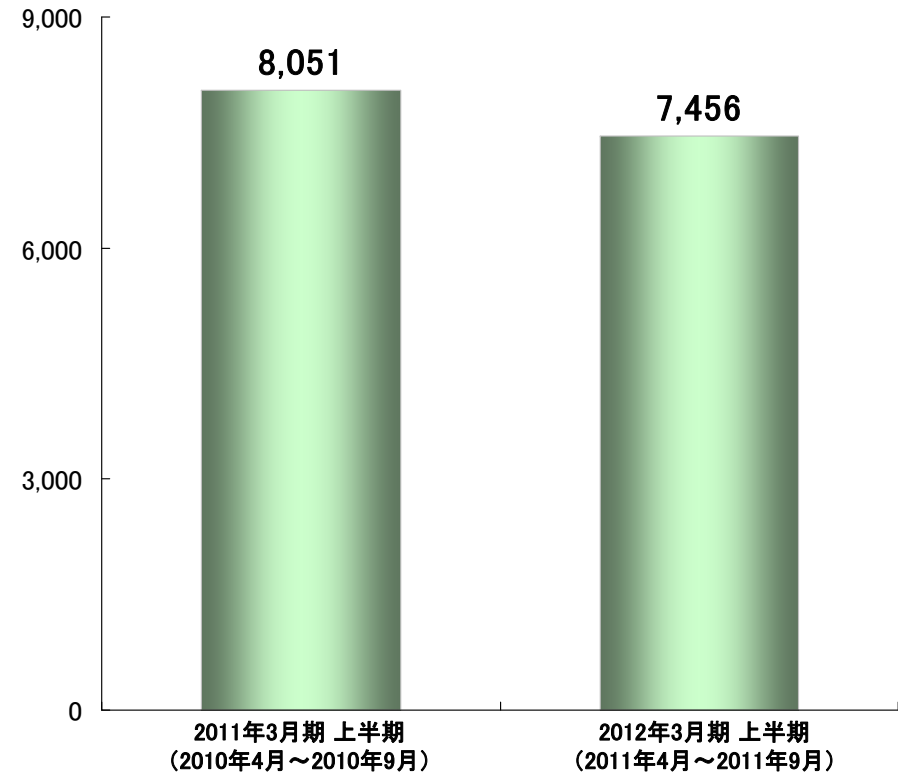
委託売買代金
約13.4%減

(億円)



委託手数料
約7.4%減

(百万円)



出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

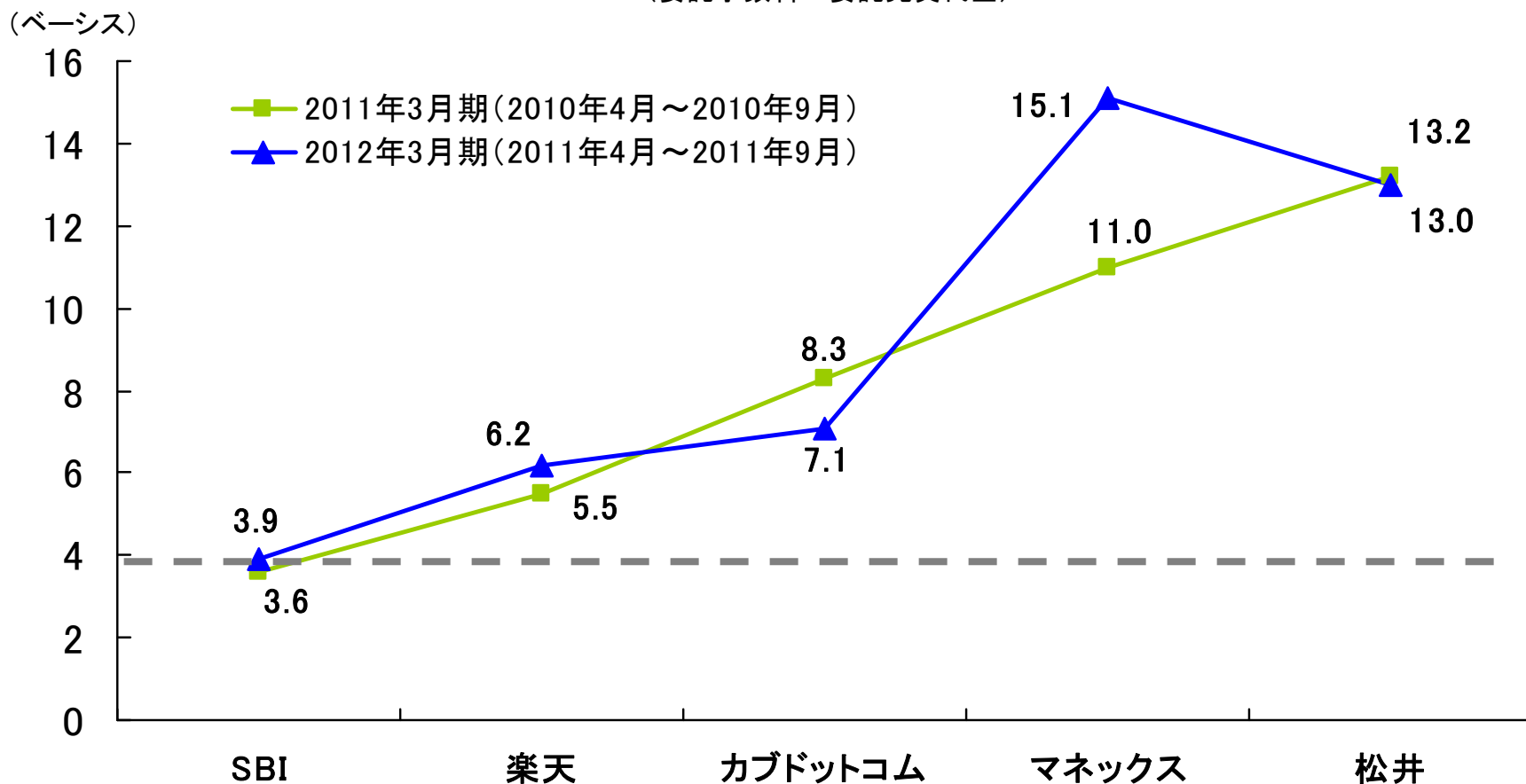
※ 個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は3市場1、2部等(東証・大証・名証の市場第一部・二部及びマザーズ・JASDAQ・セントレックス)

1. 決算概況

(4) 委託手数料②

主要オンライン証券のベースス比較

(委託手数料÷委託売買代金)



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成
委託手数料は決算短信より数値を使用
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

※1 主要オンライン証券5社はSBI証券、楽天証券、カブドットコム証券、マネックス証券、松井証券

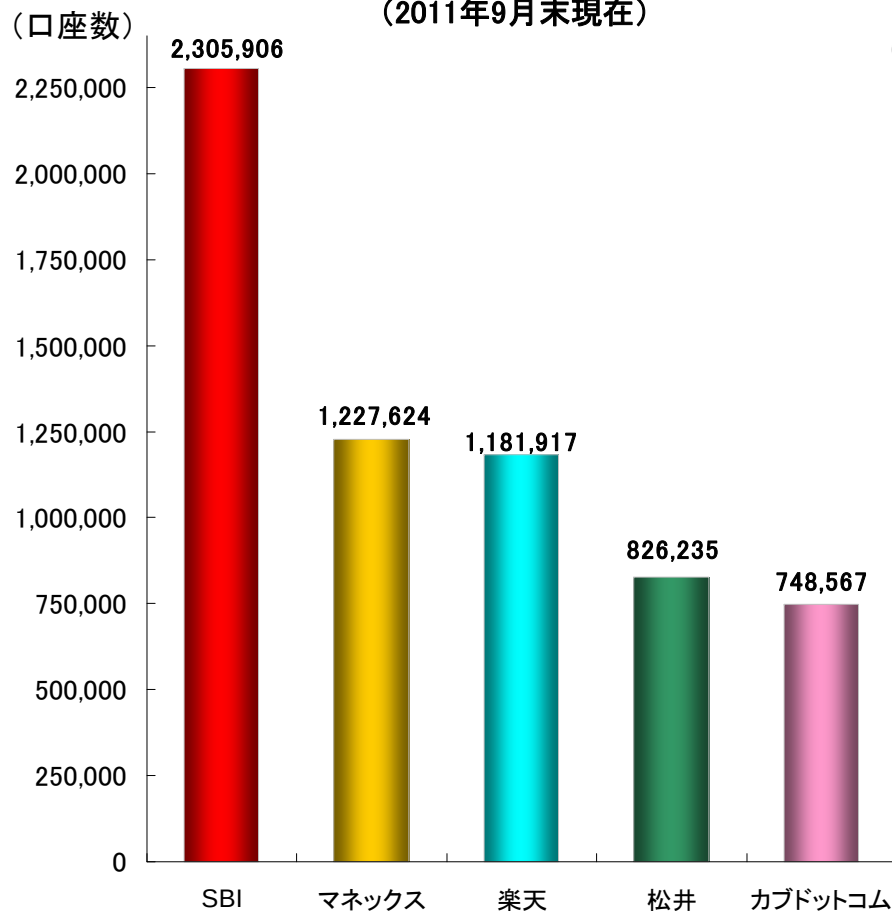
1. 決算概況

(4) 委託手数料③

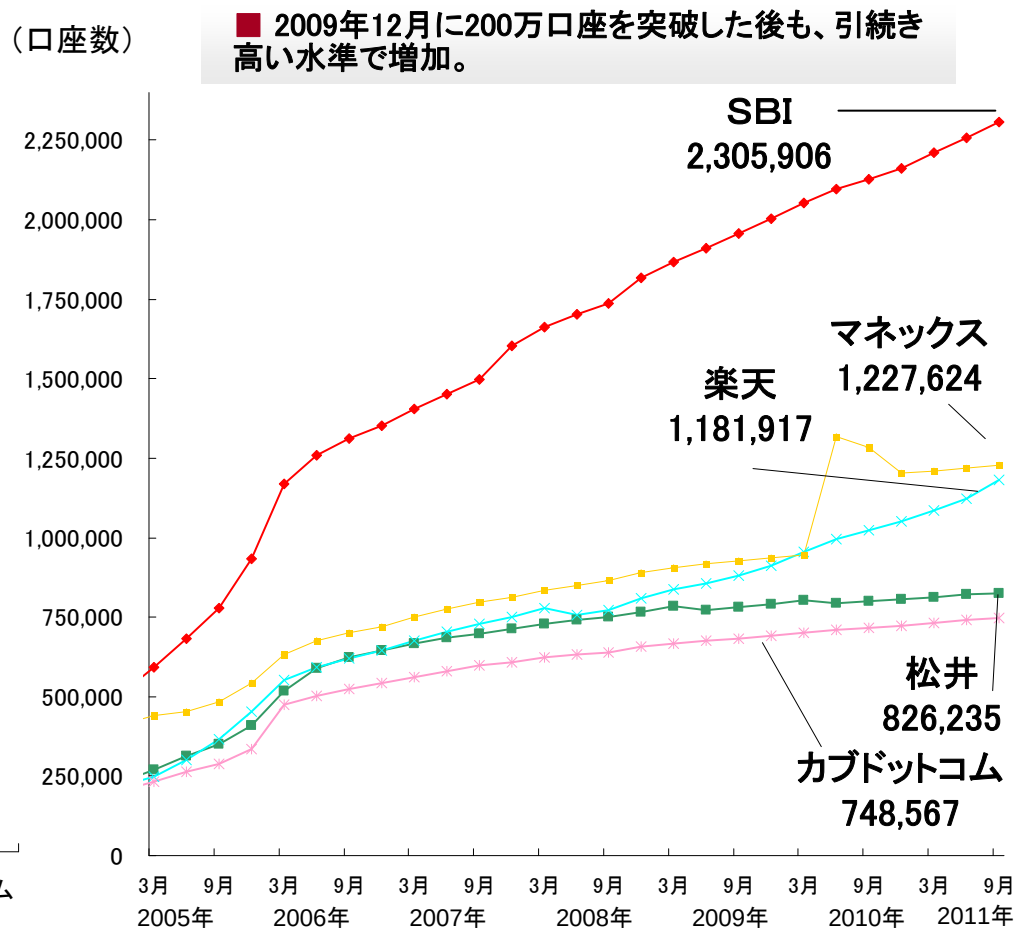
主要オンライン証券の口座数比較

主要オンライン証券5社の口座数

(2011年9月末現在)



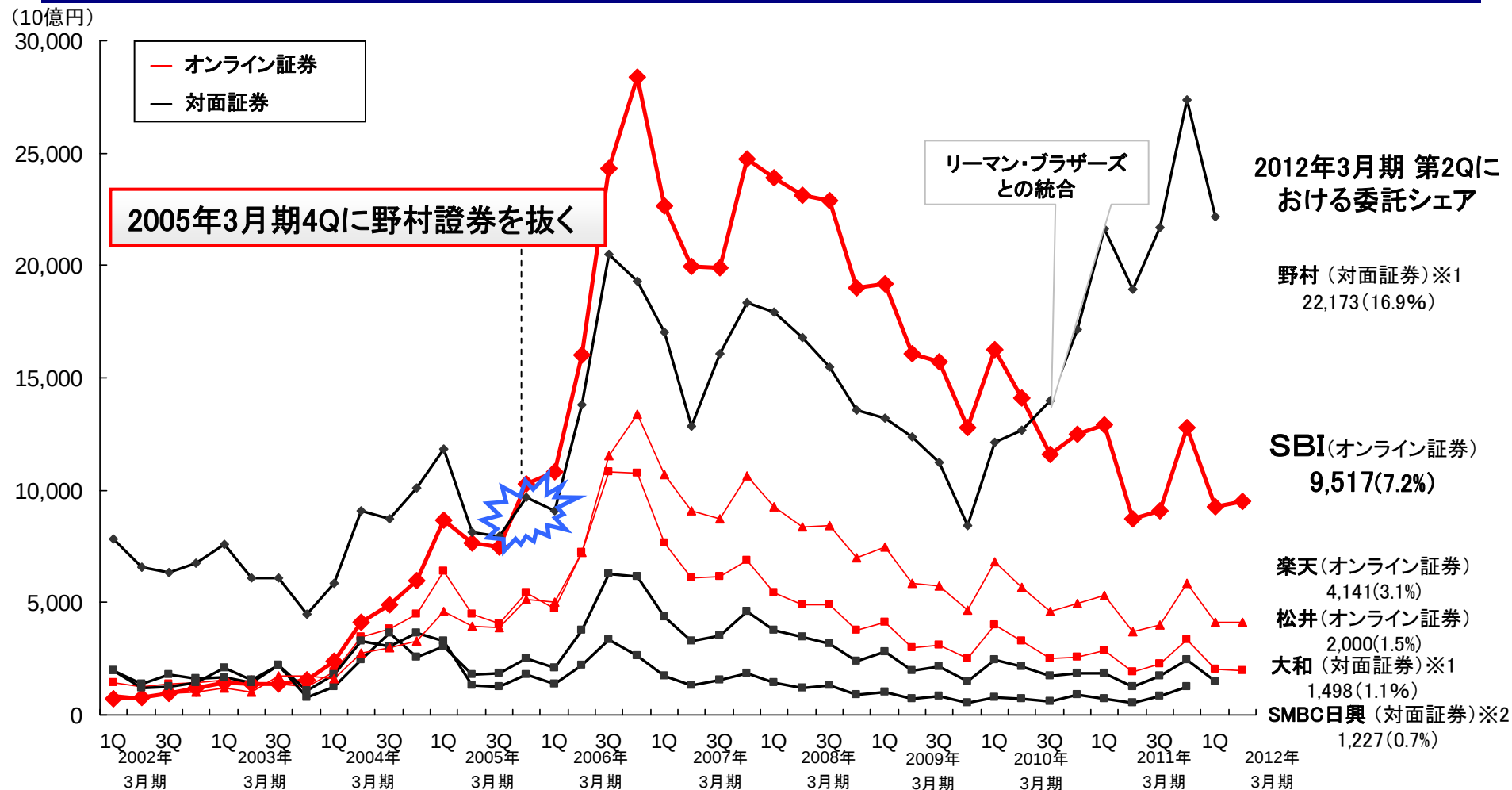
主要オンライン証券5社の口座数推移



1. 決算概況

(4) 委託手数料④

株式委託売買代金比較



(単位: 10億円、括弧内各社委託売買代金を3市場委託で除したシェア)

1. 決算概況

(4) 委託手数料⑤

個人株式委託売買代金比較

2012年3月期 第2Qに
おける個人委託シェア

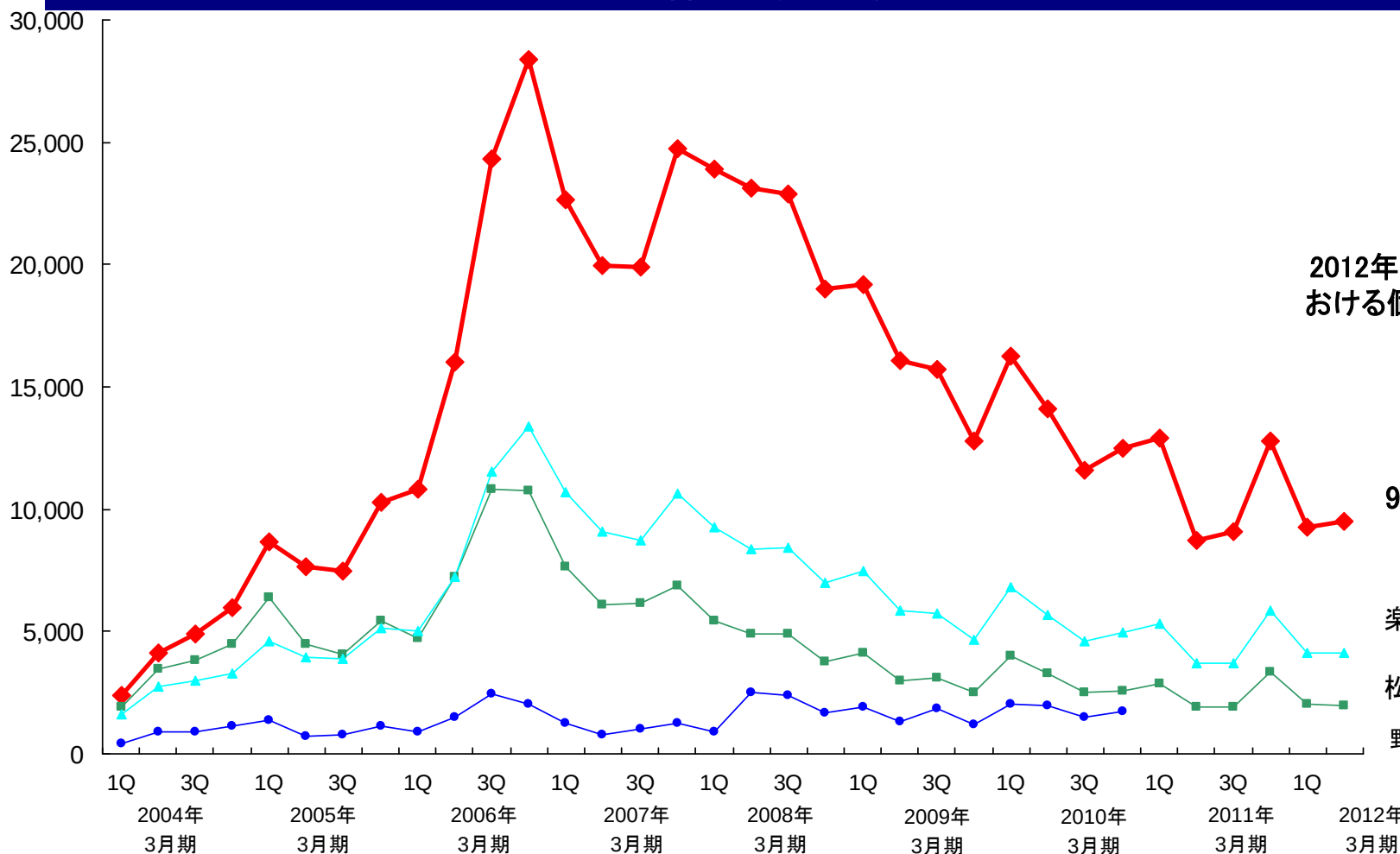
SBI

9,517(34.6%)

楽天 4,141(15.1%)

松井 2,000(7.3%)

野村 1,722※



出所: 証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成 (SBI証券分には海外投資家からの注文を含む)

※: 公表の数値から推計 (2010年3月期第4Qの数値)

(単位: 10億円、括弧内各社委託売買
代金を3市場委託で除したシェア)

1. 決算概況

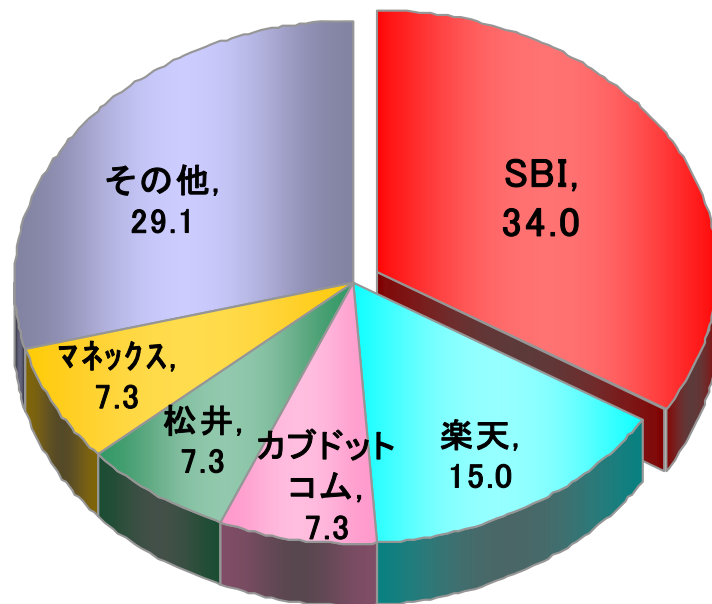
(4)委託手数料⑥

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

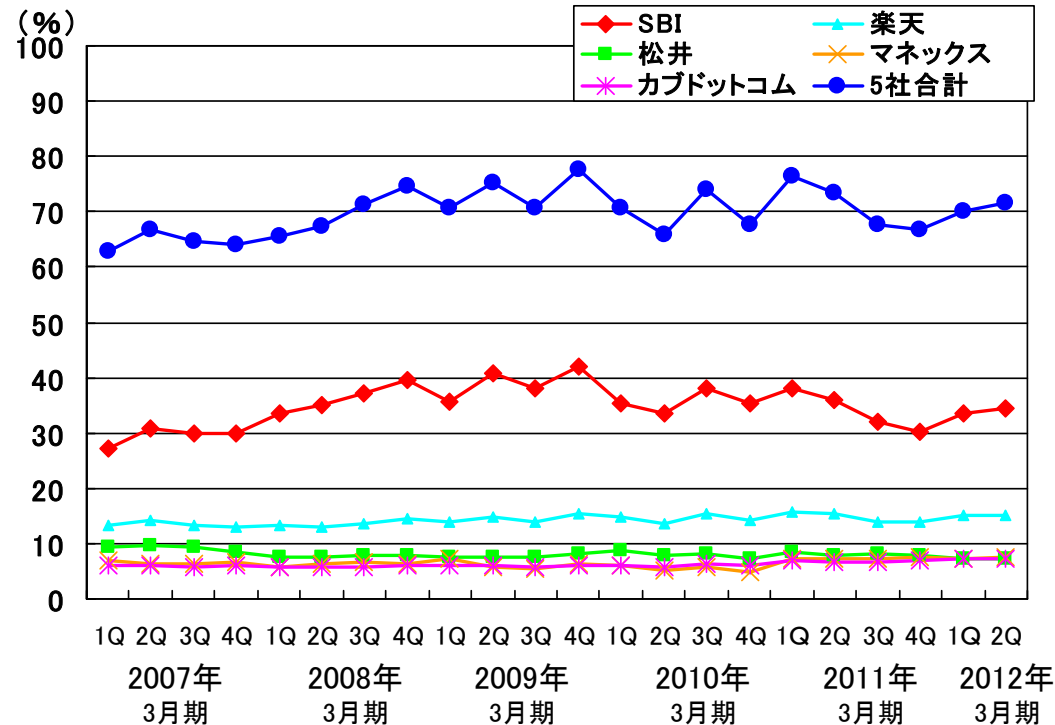
■ 三市場の個人株式委託売買代金は前年同期比約2.6%減と依然低迷。当社は引続き他社を大きく上回る高いシェアを維持し34.0%のシェアを獲得。

2012年3月期上半期累計(%)

(2011年4月～2011年9月)



個人株式委託売買代金シェアの四半期推移



出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計
 ※ 個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は東証・大証・名証とJASDAQを合算
 ※ SBI証券はインターネット取引のみで算出

1. 決算概況

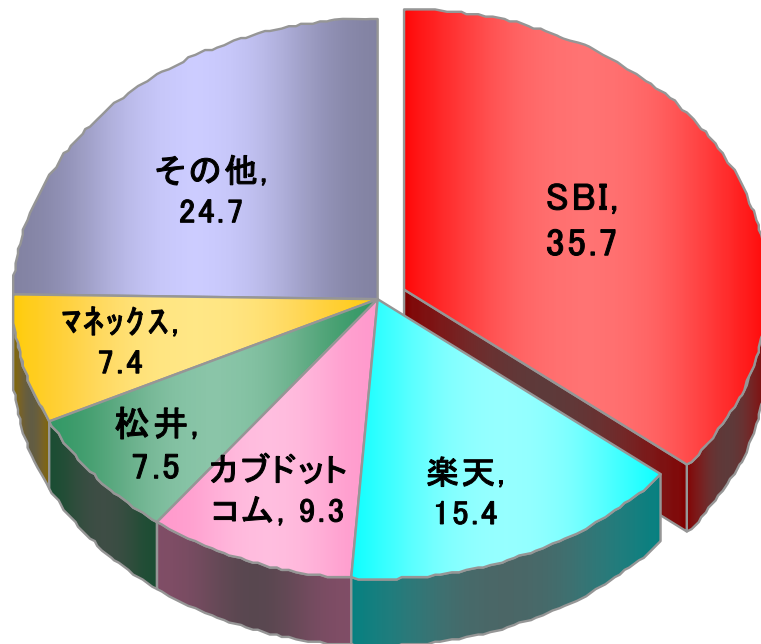
(4) 委託手数料⑦

主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

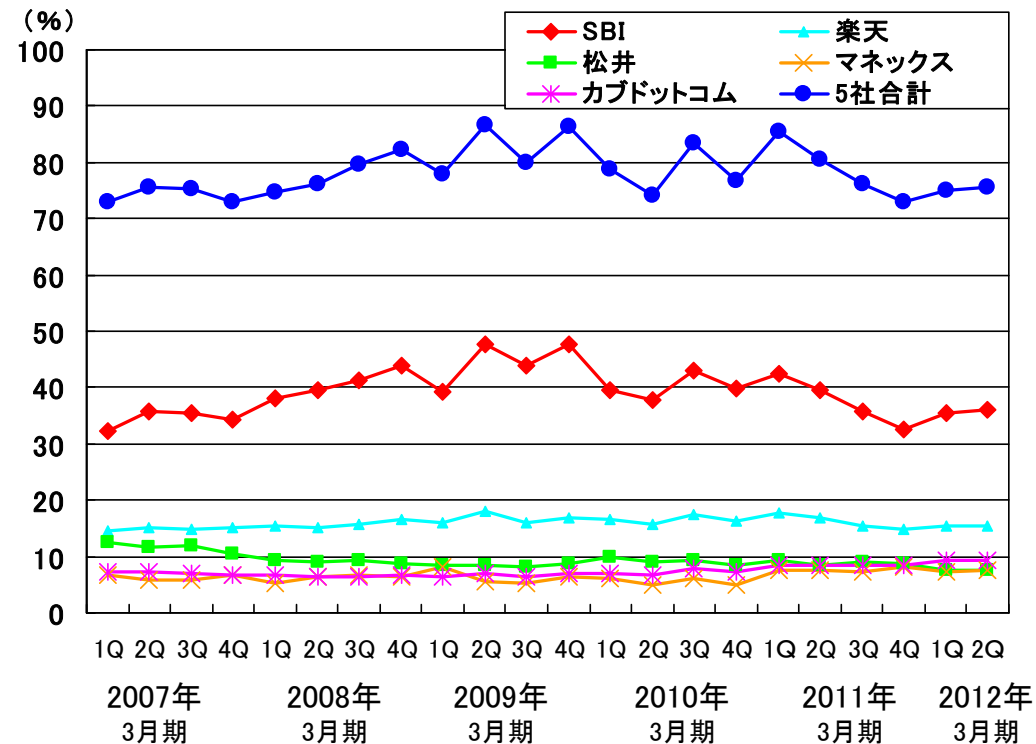
■ 信用取引においても引続き他社を大きく上回る高いシェアを維持し、35.7%のシェアを獲得。

2012年3月期上半期累計(%)

(2011年4月～2011年9月)



個人信用取引委託売買代金シェアの四半期推移



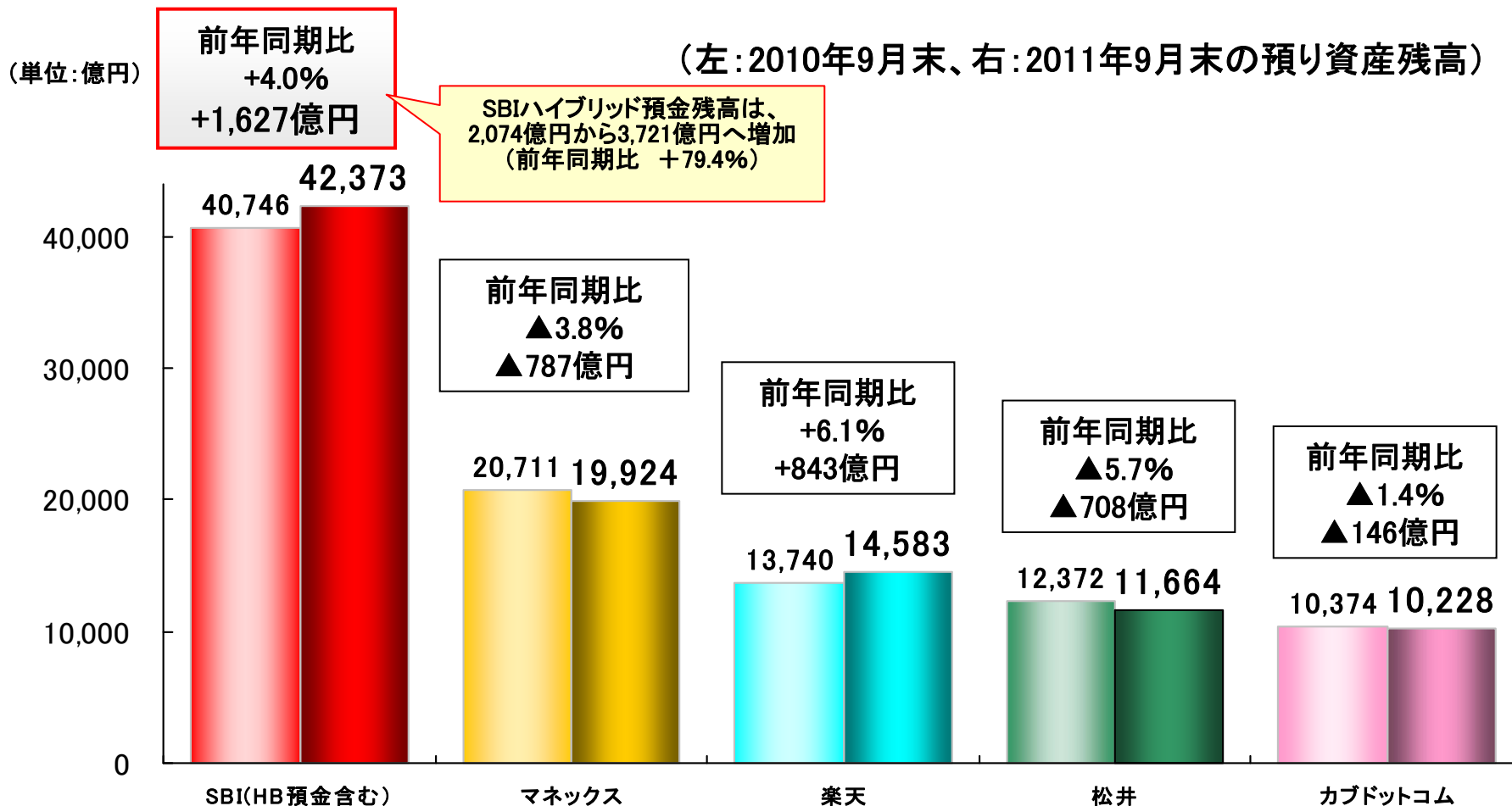
出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計
 ※ 個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は東証・大証・名証とJASDAQを合算
 ※ SBI証券はインターネット取引のみで算出

1. 決算概況

(4) 委託手数料⑧

主要オンライン証券の預り資産残高比較

■ SBIハイブリッド預金残高3,721億円(2011年9月30日現在)を含めると、預り資産残高は約4兆2,373億円。



1. 決算概況

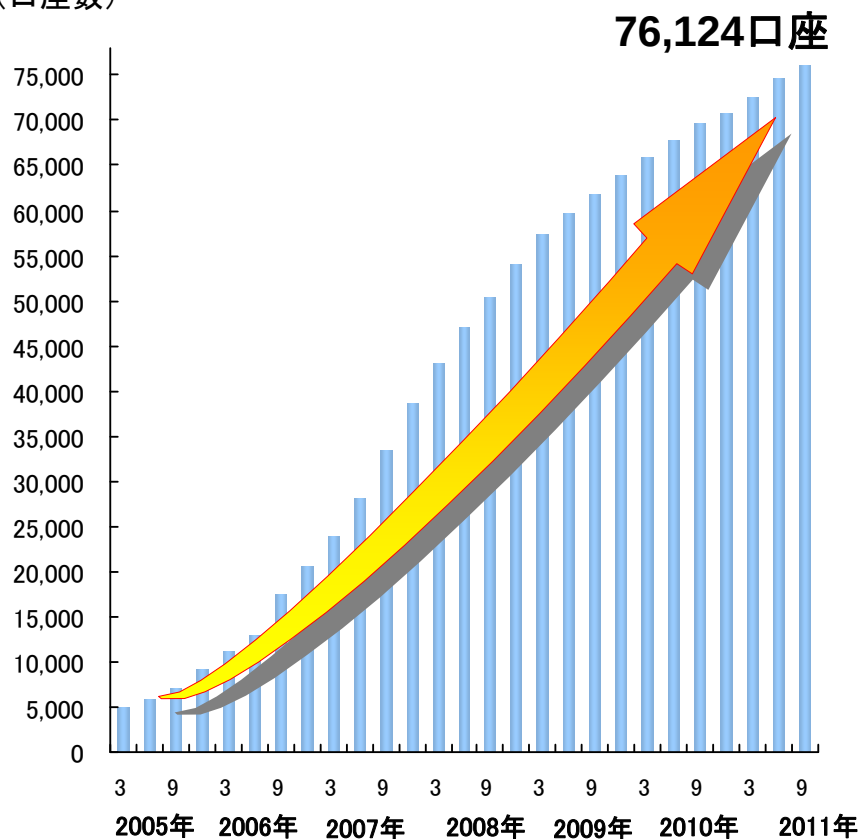
(4) 委託手数料⑨

先物・オプション取引の推移

■ 東日本大震災以降マーケットが低迷するも、7/19からの取引時間延長等により市場の個人取引が増加し、手数料は前四半期比67.4%増加。

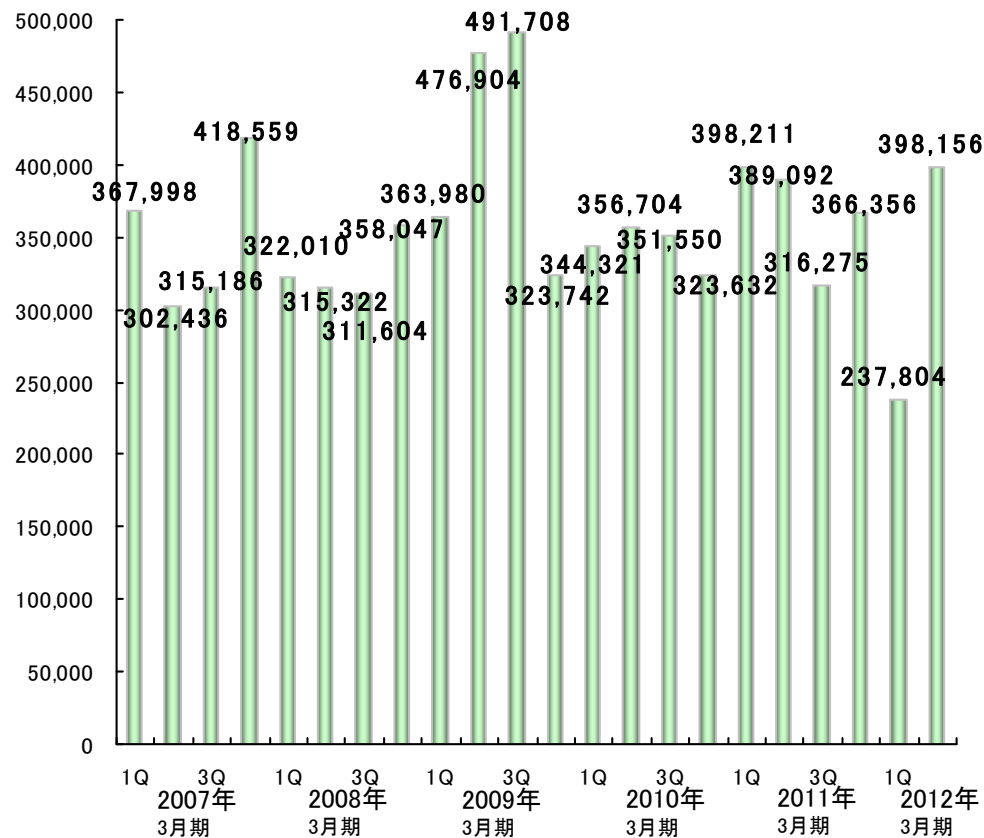
先物オプション取引の口座数推移

(口座数)



先物オプション取引の手数料推移

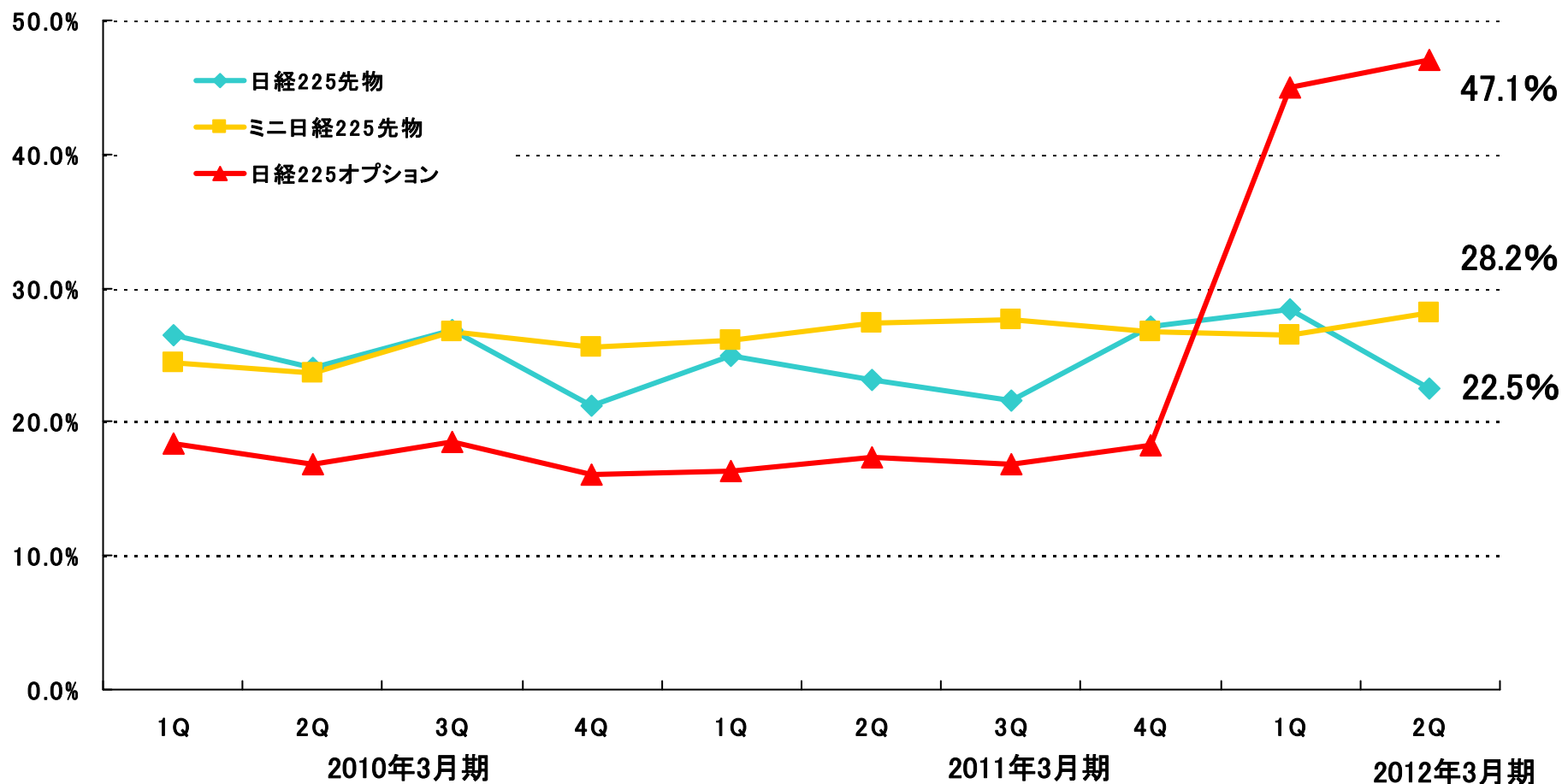
(千円)



1. 決算概況

(4) 委託手数料⑩

先物・オプション取引シェア(四半期毎)の推移 ※



※ 大阪証券取引所公表の個人委託売買枚数に対する、SBI証券の売買枚数にて算出

1. 決算概況

(4) 委託手数料⑪

外国株式の取り扱いを拡充

■ 新興国株式の取り扱いを拡充し、高い経済成長が期待される新興国への投資機会を提供。

取扱銘柄 (2011年10月14日時点)



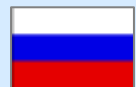
米国株式: NYSE、NYSE Arca、NASDAQ上場の
(2003年8月～) 米国株式、米国ETF、ADR(米国預託証券) **649銘柄**



中国株式: 香港証券取引所メインボード・GEM上場の
(2005年3月～) 中国株式、中国ETF、HDR(香港預託証券) **1,377銘柄**



韓国株式: 韓国証券取引所及び韓国店頭株式市場上場の株式 **54銘柄**
(2005年5月～)



ロシア株式: MICEX証券取引所の株式 **41銘柄**
(2009年11月～)



ベトナム株式: 原則ホーチミン証券取引所、ハノイ証券取引所
(2011年1月～) 上場の全株式 **634銘柄**

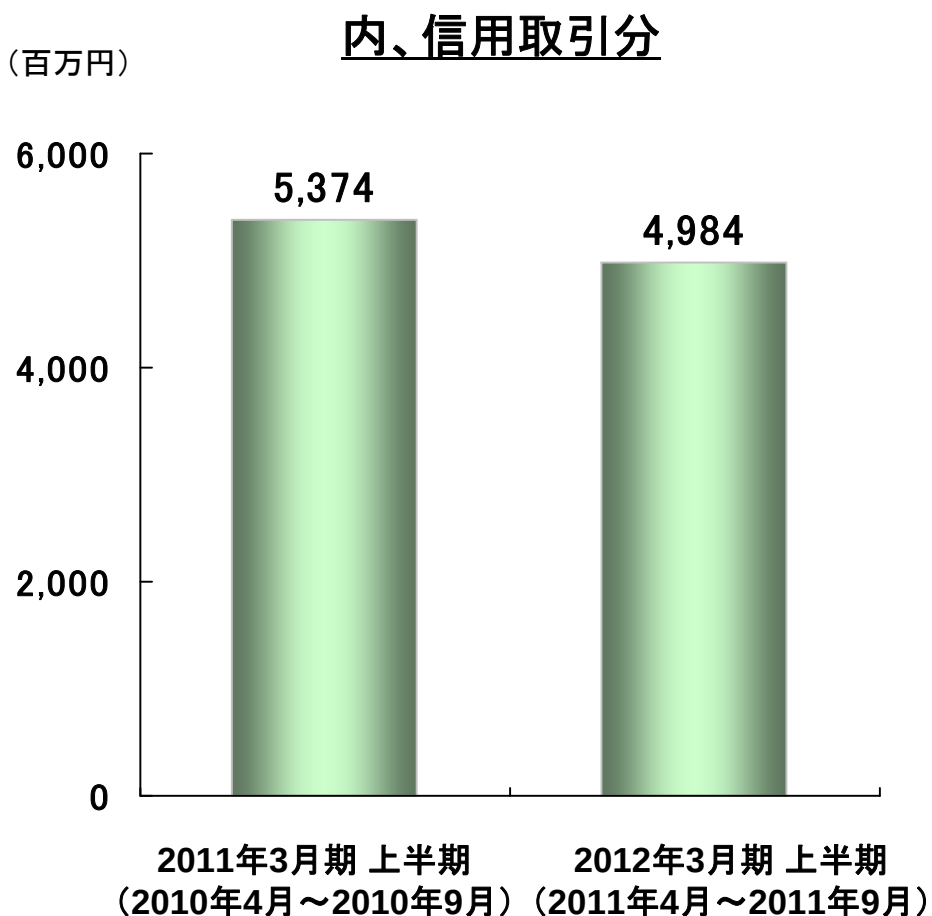
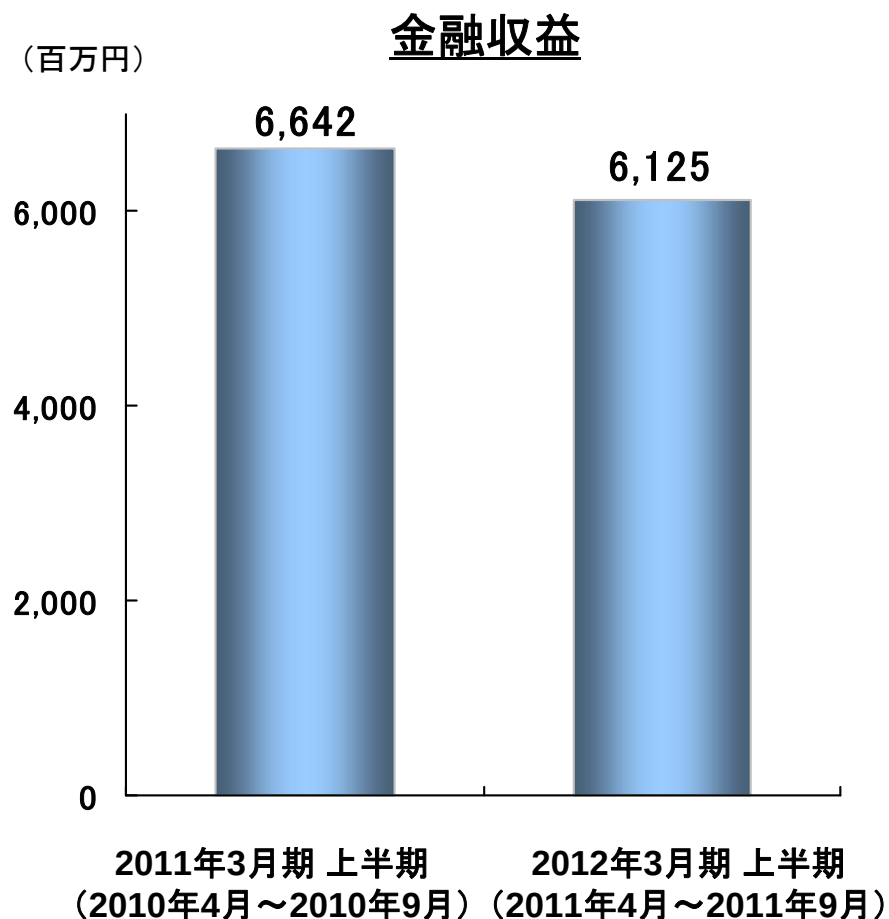


インドネシア株式についても取り扱い開始に向けて準備中

1. 決算概況

(5)金融収益①

■ 信用取引建玉残高の減少に伴う信用取引関連の収益減少の影響より、金融収益は減少。

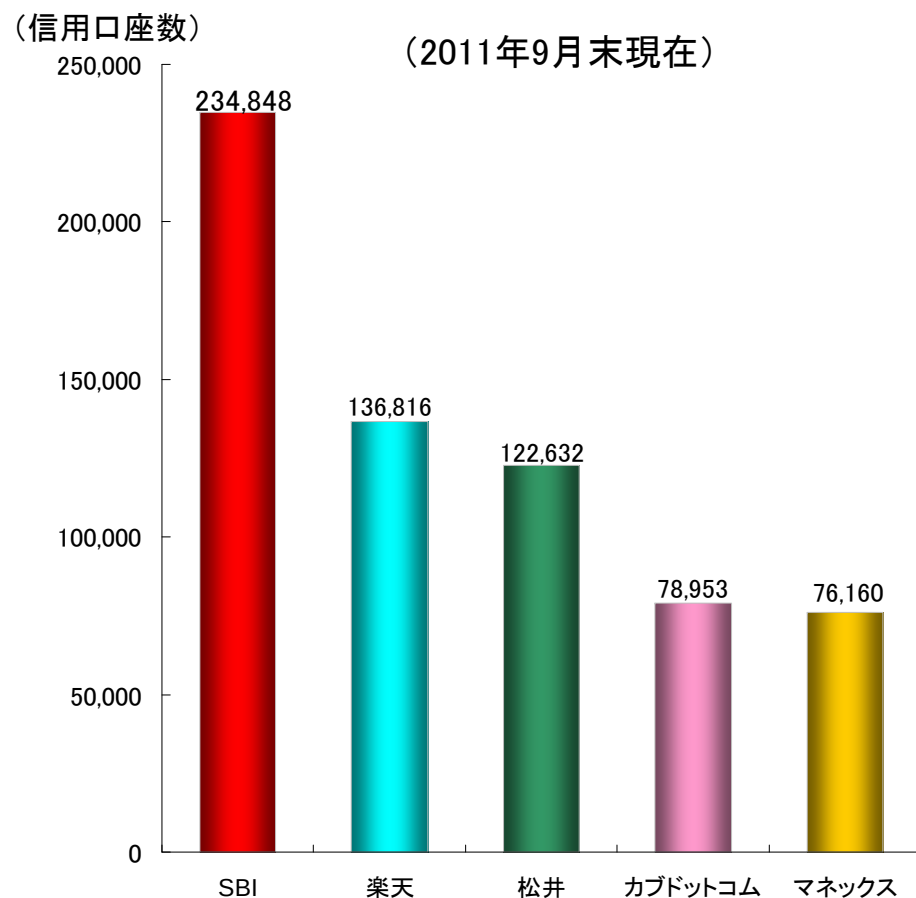


1. 決算概況

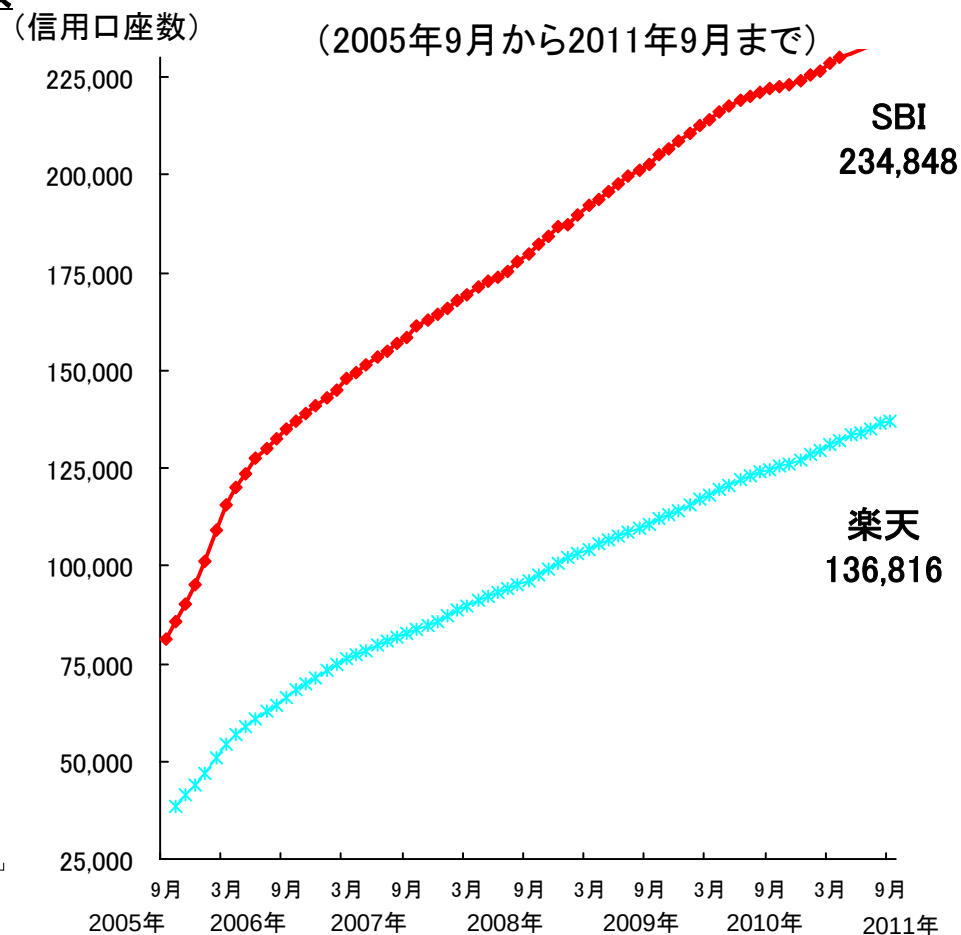
(5) 金融収益②

主要オンライン証券の信用取引口座数比較

主要オンライン証券5社の信用取引口座数



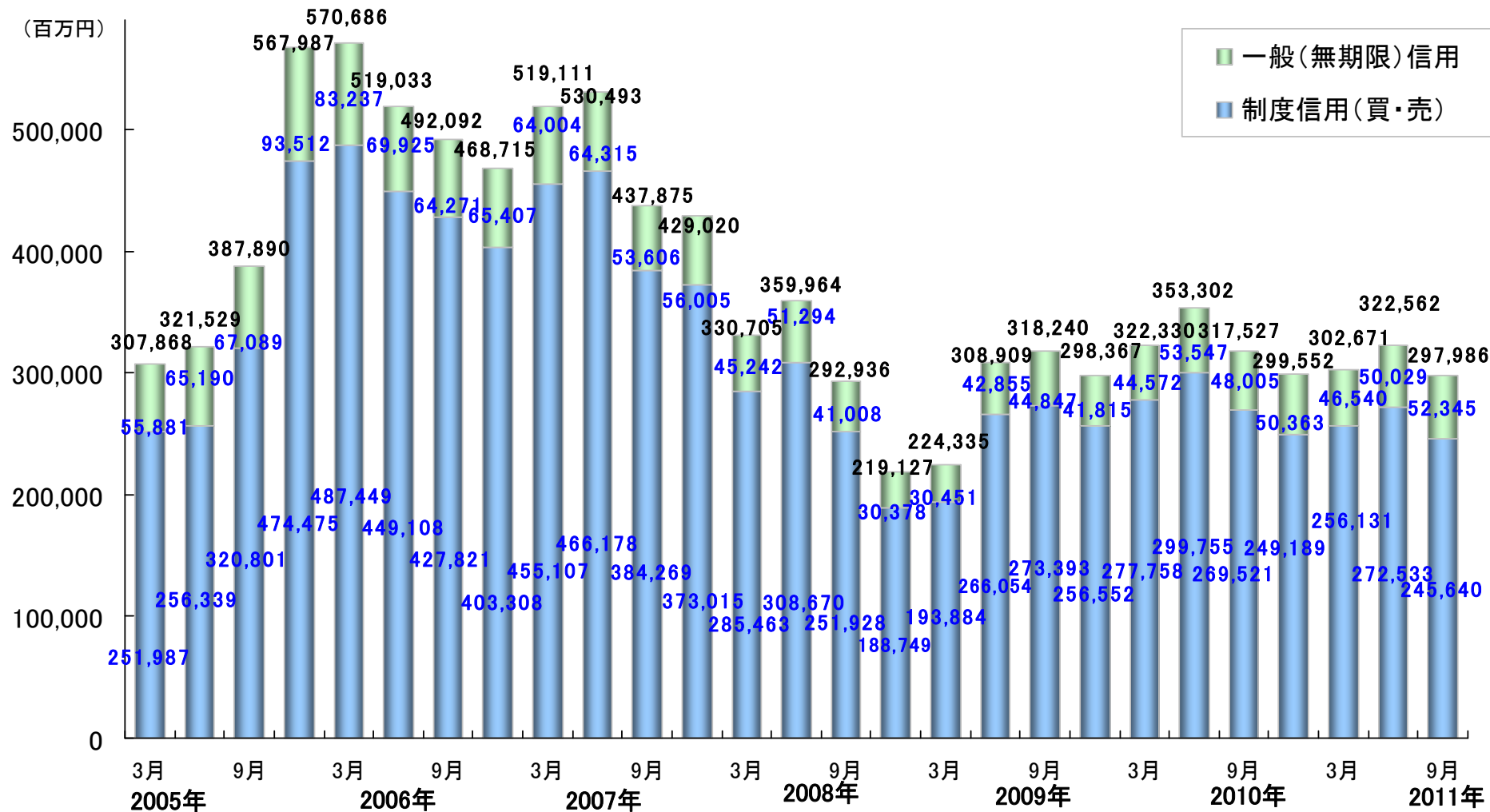
楽天証券との信用取引口座数比較



1. 決算概況

(5) 金融収益③

信用取引建玉残高(買残・売残の合計)の推移(月末残高)



※1. 受渡日ベースで算出

※2. 2007年12月以降は対面口座分を含む

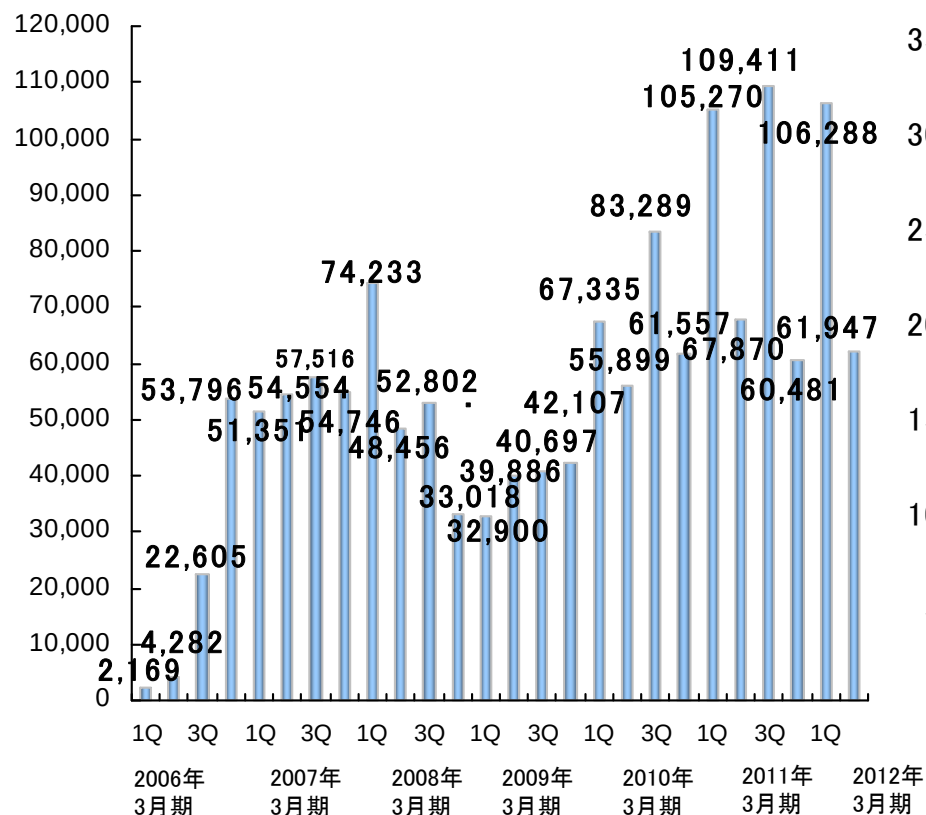
1. 決算概況

(5)金融収益④

貸株業務による収益の推移

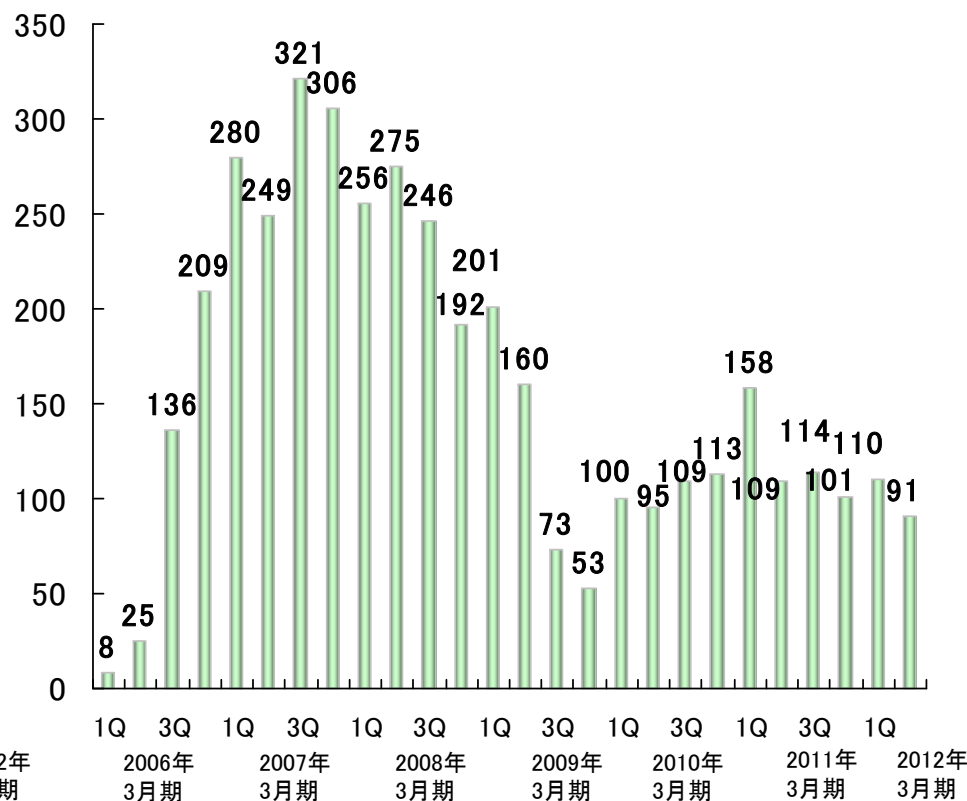
■ 貸株残高は9月末の一時的な要因により減少するも、期中は引き続き優位な資金調達が可能に。
貸株料等の貸株収益は、貸株市況の低迷により横這。

(百万円) 各四半期末日における貸株残高



(百万円)

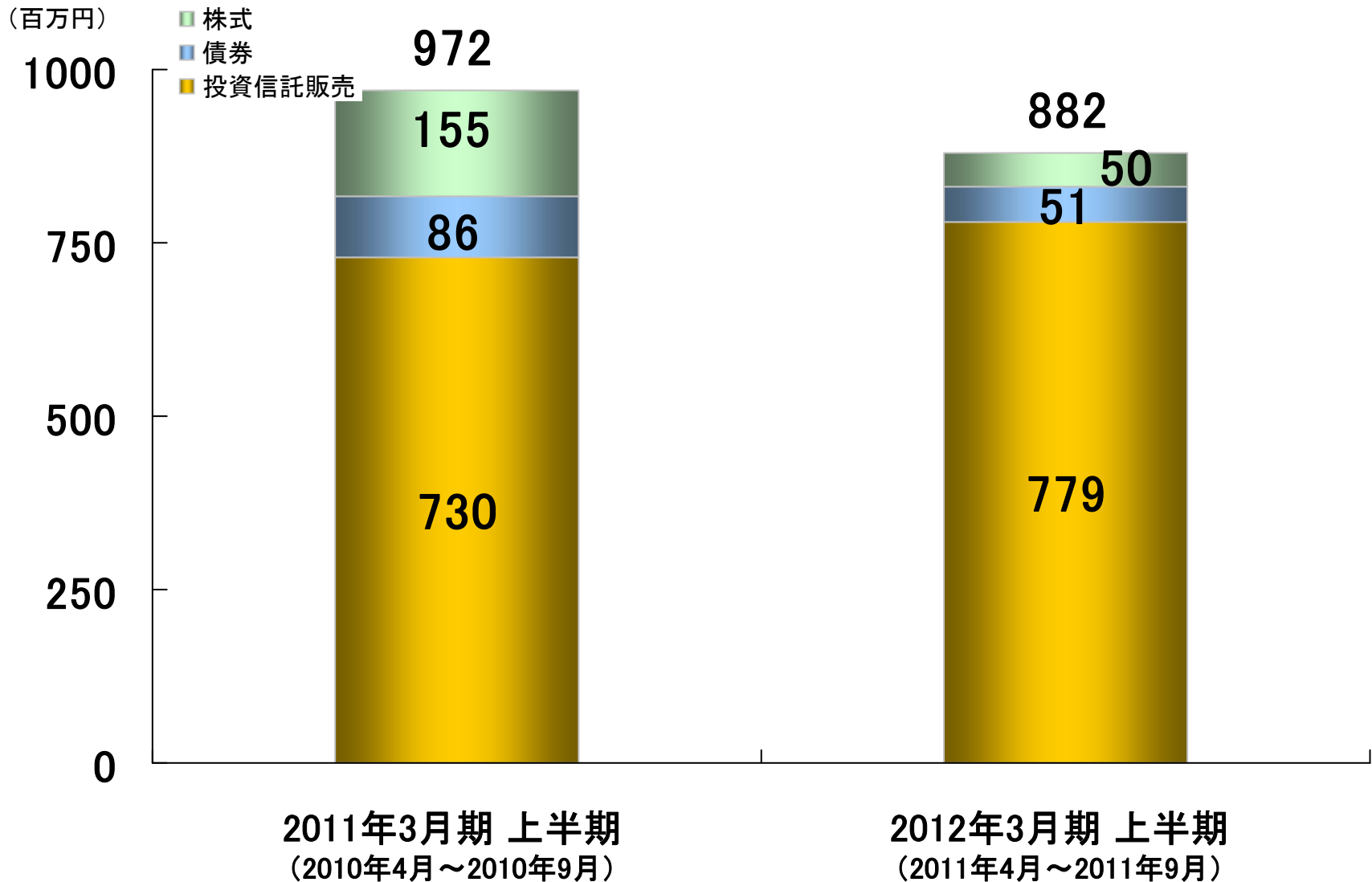
貸株業務による収益の推移



※各期末時点での時価で算定。※株主優待の取得等の影響で、9月末(2Q)・3月末(4Q)は、一時的に残高が減少。

1. 決算概況

(6)引受・募集・売出手数料①



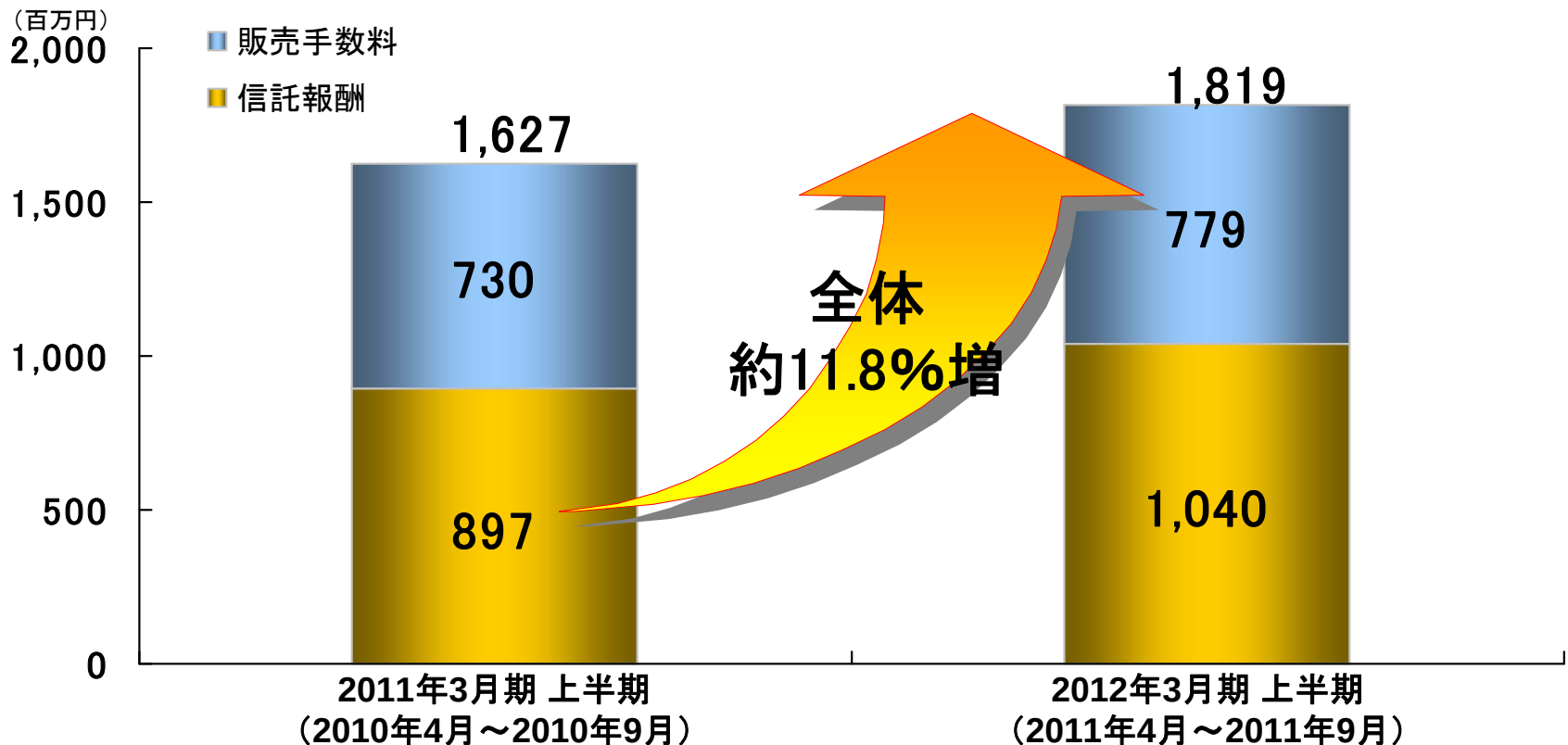
1. 決算概況

(6)引受・募集・売出手数料②

投資信託販売手数料及び信託報酬の実績

■ 投資信託販売が好調に推移し、販売手数料、信託報酬ともに増加。

- ・2011年6月のMRF廃止に伴いMRF残高にかかる信託報酬は減少。
- ・銀行代理業手数料収入は、2012年3月期上半期で約62百万円。(SBIハイブリッド預金残高:3,721億円)



※1. 販売手数料及び信託報酬の合計(信託報酬には、MRF分を含む。)

※2. 信託報酬は「その他の受入手数料」に含まれる

1. 決算概況

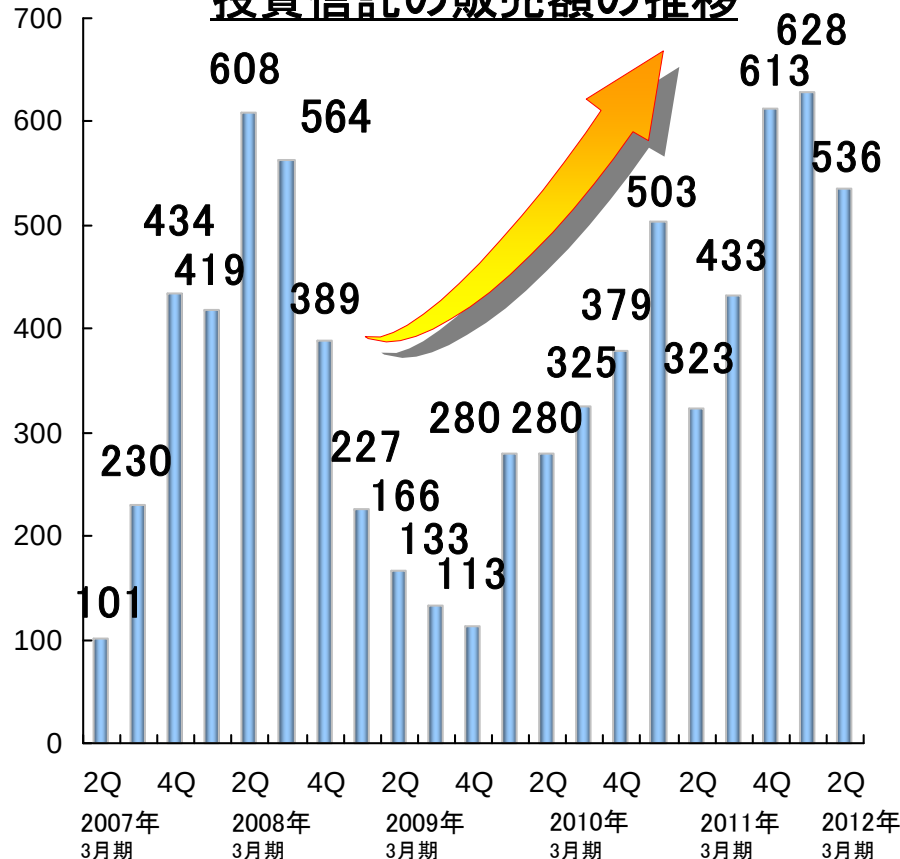
(6)引受・募集・売出手数料③

投資信託販売額の推移と主な取組み

■ 業界No.1の取扱本数と豊富なコンテンツ・ツール等の提供により、販売額は堅調に推移。販売額は、前年同期比で40.9%増加。

(億円)

投資信託の販売額の推移



※MMF、中国ファンドを含む。

投資信託の主な取組み

①主要オンライン証券で取扱本数No.1

- ・業界最速となる取扱本数1,000本を達成。
(2011年10月20日現在: 1,150本)
- ・ノーロード投信も拡充しており取扱本数は310本
(2011年10月20日現在)

②インターネット証券4社による

『資産倍増プロジェクト』始動！

- ・インターネット証券大手4社が一致協力し、共同プロジェクトを立ち上げ。



※主要オンライン証券は投資信託を取り扱っている、
SBI証券、楽天証券、カブドットコム証券、マネックス証券の4社

1. 決算概況

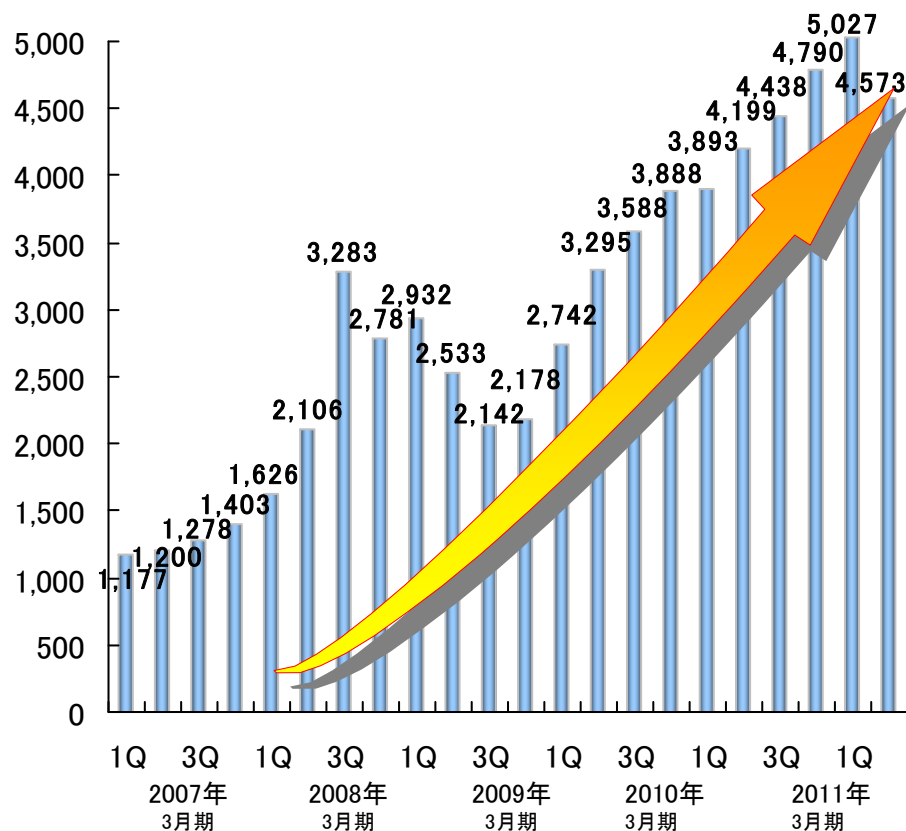
(6)引受・募集・売出手数料④

投資信託残高と信託報酬の推移

投資信託 四半期末残高の推移

株式市場の下落等のマーケット環境を背景に資産評価額は下落したものの、残高は前年同期比8.9%増

(億円)

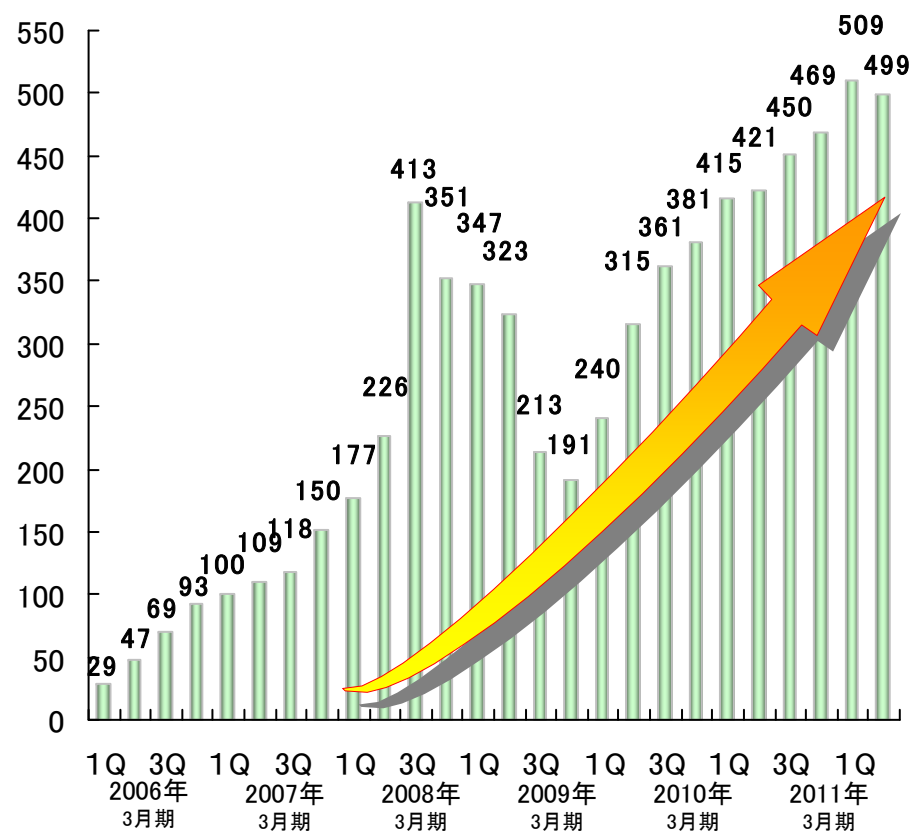


※MMF、中国ファンドおよび対面口座分の預りを含む

投資信託 信託報酬額の推移

前年同期比20.5%増

(百万円)



※MMF、中国ファンドおよび対面口座分の預りを含む

※信託報酬は「その他の受入手数料」に含まれる

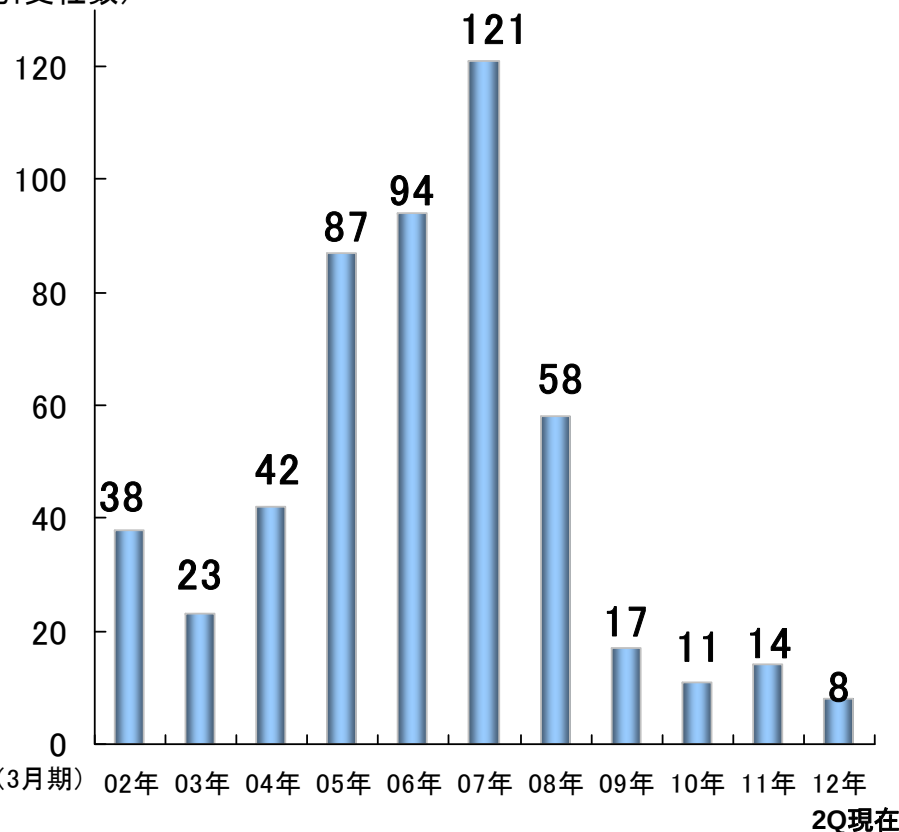
1. 決算概況

(6)引受・募集・売出手数料⑤

新規公開株式(IPO)引受実績

■ 2012年3月期 上半期の上場会社数は12社と依然として低迷するも、SBI証券の引受関与率は約66.6%と引き続き高水準を維持。

(引受社数) **SBI証券 新規公開株式引受実績**



IPO引受社数ランキング(2012年3月期上半期)

社名	件数	関与率(%)
SMBC日興	9	75.0 %
SBI	8	66.6 %
野村	8	66.6 %
大和証券CM	6	50.0 %
三菱UFJモルスタ	6	50.0 %
みずほ	6	50.0%
SMBCフレンド	4	33.3%

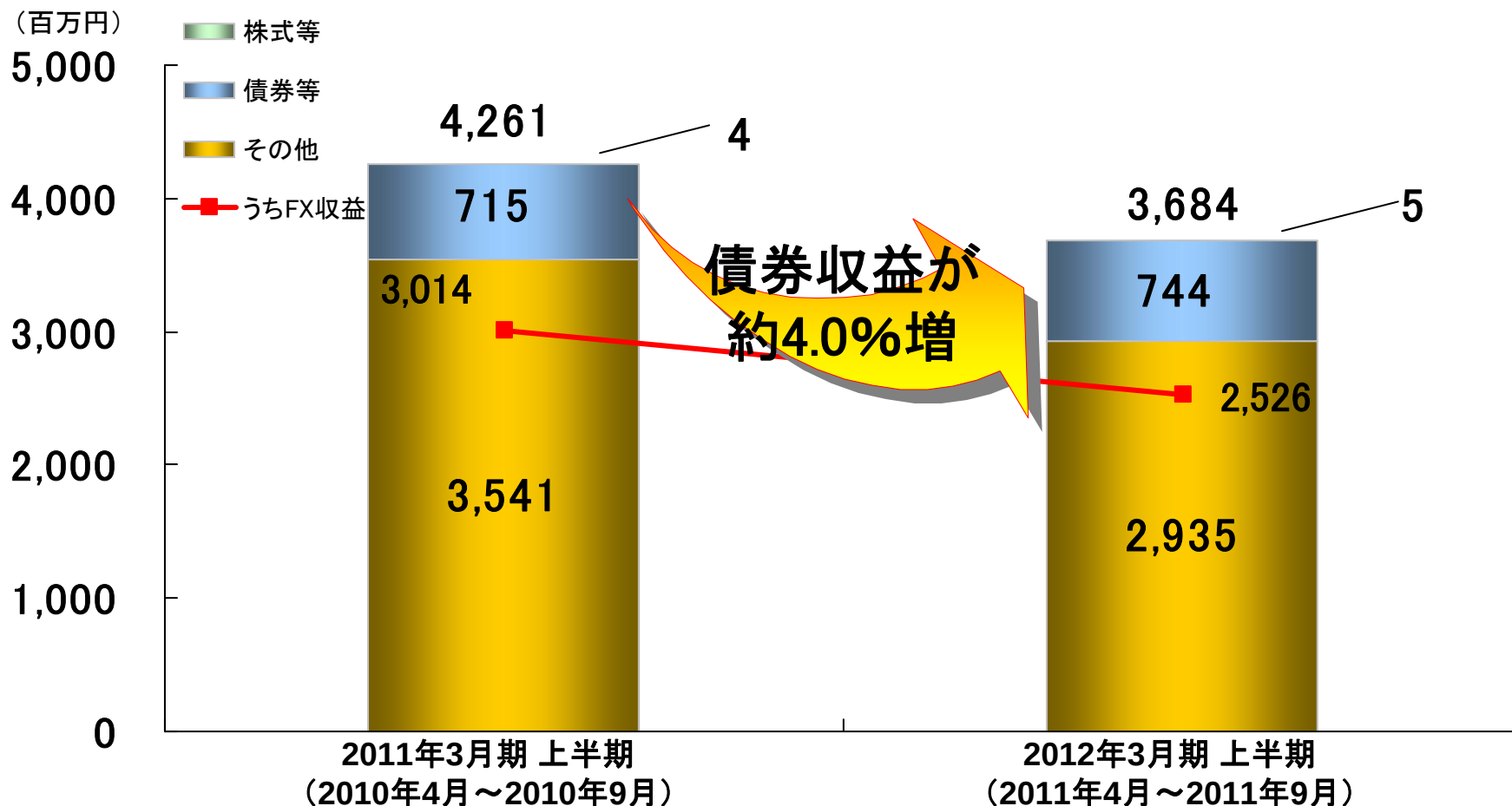
※集計対象は新規上場企業の国内引受分で、追加売出分と海外は含まず。
 ※引受参加とは、自社の主幹事案件含む引受銘柄数
 ※各社発表資料より当社にて集計

1. 決算概況

(7)トレーディング損益・その他収入①

トレーディング損益

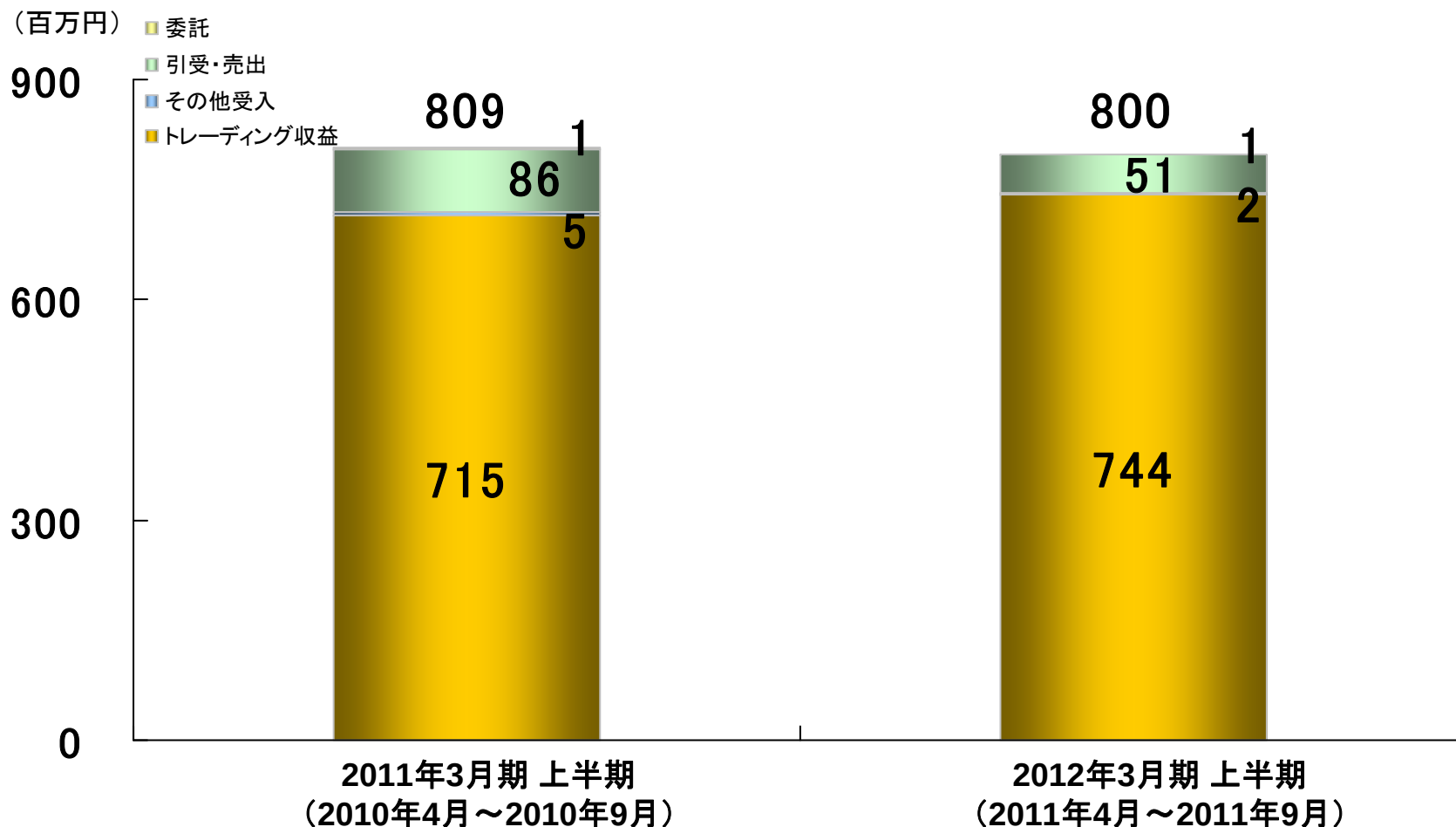
■外国為替保証金取引(FX)のスプレッド縮小等によるFX収益の減少により、トレーディング損益は減収。



1. 決算概況

(7)トレーディング損益・その他収入②

円貨建及び外貨建債券にかかる収益の実績



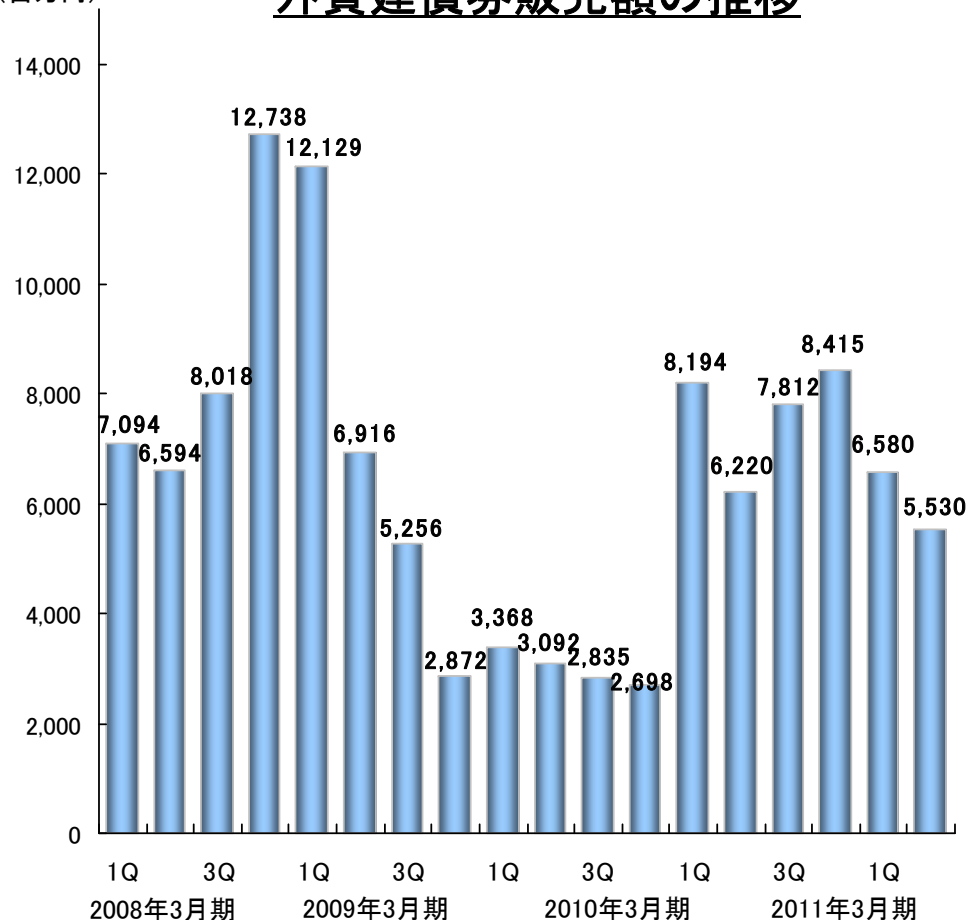
1. 決算概況

(7)トレーディング損益・その他収入③

外貨建債券販売額の推移と主な取組み

外貨建債券販売額の推移

(百万円)



外貨建債券の主な取組み

◆注力商品

・ブラジルレアル建債券



・南アフリカランド建債券



・トルコリラ建債券



◆人民元建中国国債（既発）の取扱開始
 ～外貨建既発債券の取扱い通貨数は大手ネット証券
 最多の11通貨に～



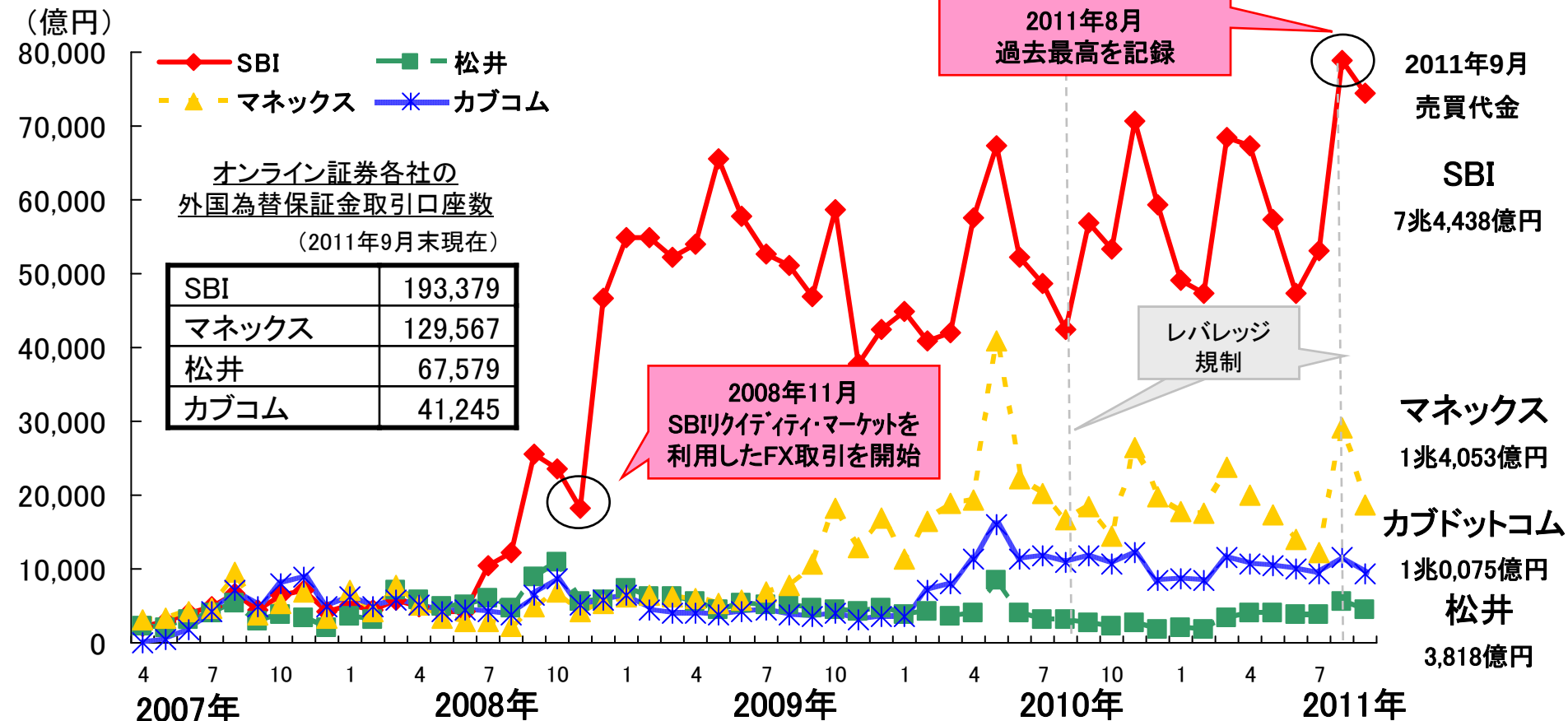
人民元建中国国債(既発)

1. 決算概況

(7)トレーディング損益・その他収入④

主要オンライン証券4社(※1)のFX売買代金の推移

■ 2011年8月からのレバレッジ規制(25倍)の影響により、店頭FX(市場)は売買代金が減少したものの、スプレッドの縮小や新規獲得のキャンペーン等が奏功し、過去最高を記録。



※1 データが開示されたSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の4社

※2 SBI証券は、2008年11月以降、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

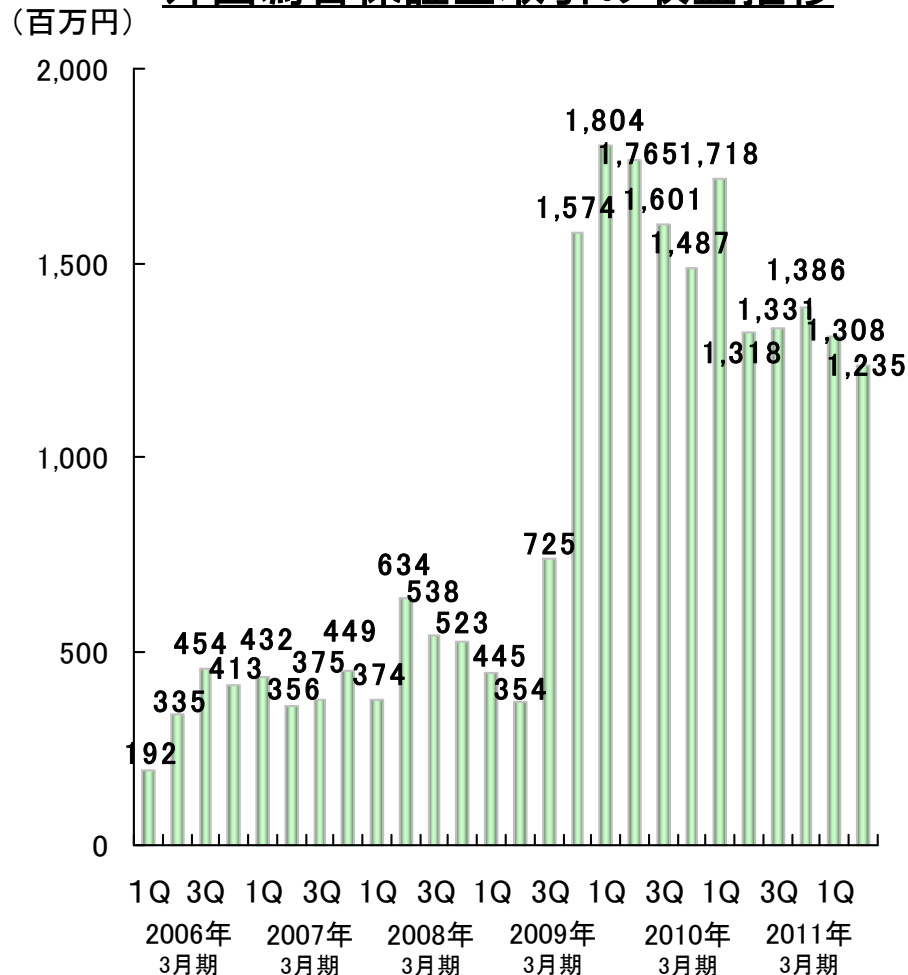
出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

1. 決算概況

(7)トレーディング損益・その他収入⑤

FX取引の実績と主な取組み

外国為替保証金取引の収益推移



外国為替保証金取引の主な取組み

①FX (iPhone, iアプリ) の提供開始



②主要通貨ペアのスプレッドを縮小



米ドル/円など10通貨ペアのスプレッドを縮小(2011/7/15～)

通貨ペア	旧	7月15日～
米ドル/円	1～2銭	1銭
ユーロ/円	3～4銭	2銭
ポンド/円	5～6銭	3銭
豪ドル/円	3～4銭	2銭
ユーロ/米ドル	0.0002～0.0003米ドル	0.0001米ドル
ポンド/米ドル	0.0004～0.0005米ドル	0.0002米ドル
豪ドル/米ドル	0.0004～0.0005米ドル	0.0002米ドル

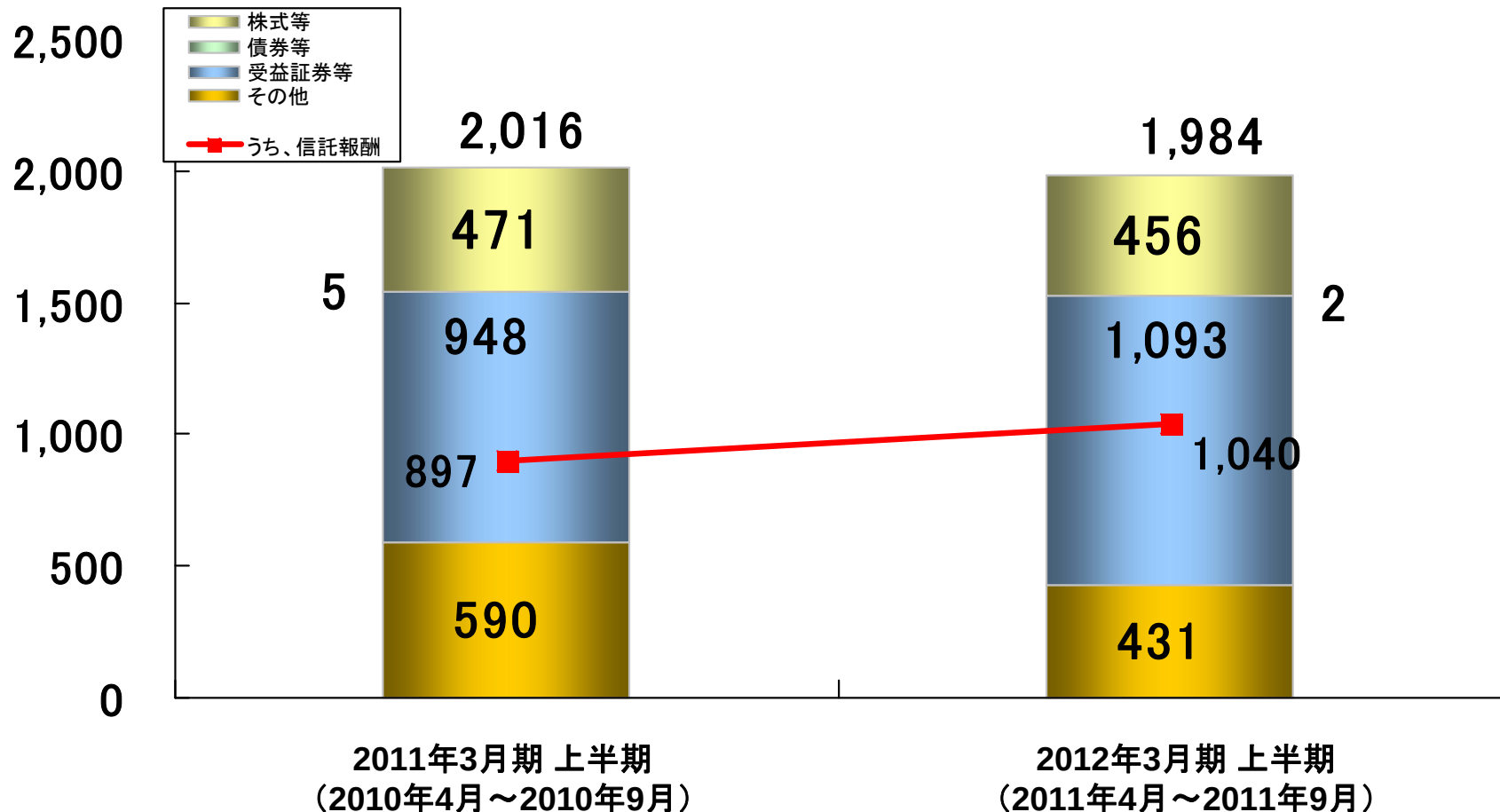
1. 決算概況

(7)トレーディング損益・その他収入⑥

その他受入手数料

■ 投資信託残高の積み上げに伴う信託報酬の増加が寄与するも、全体では前年同期比で減少。

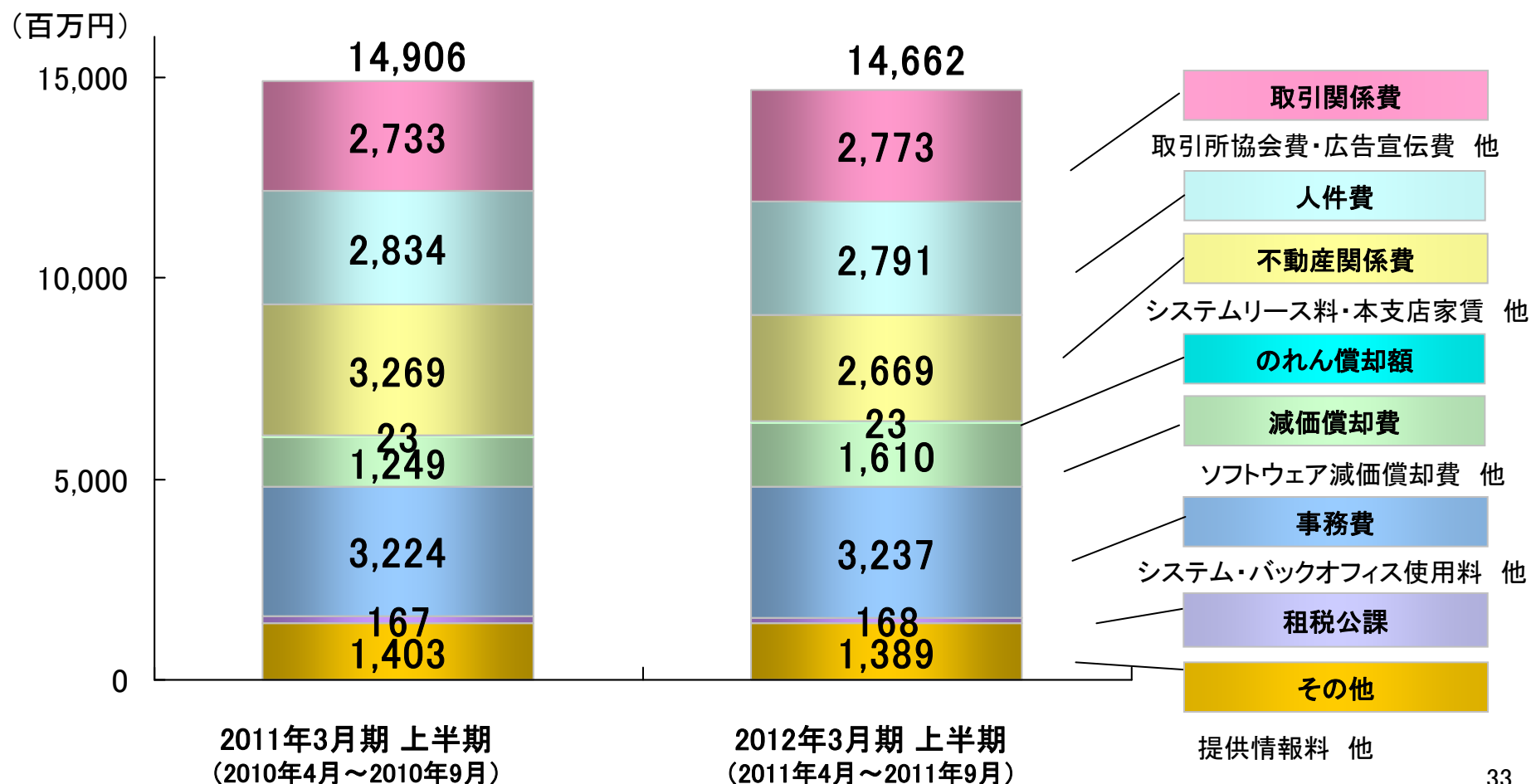
(百万円)



1. 決算概況

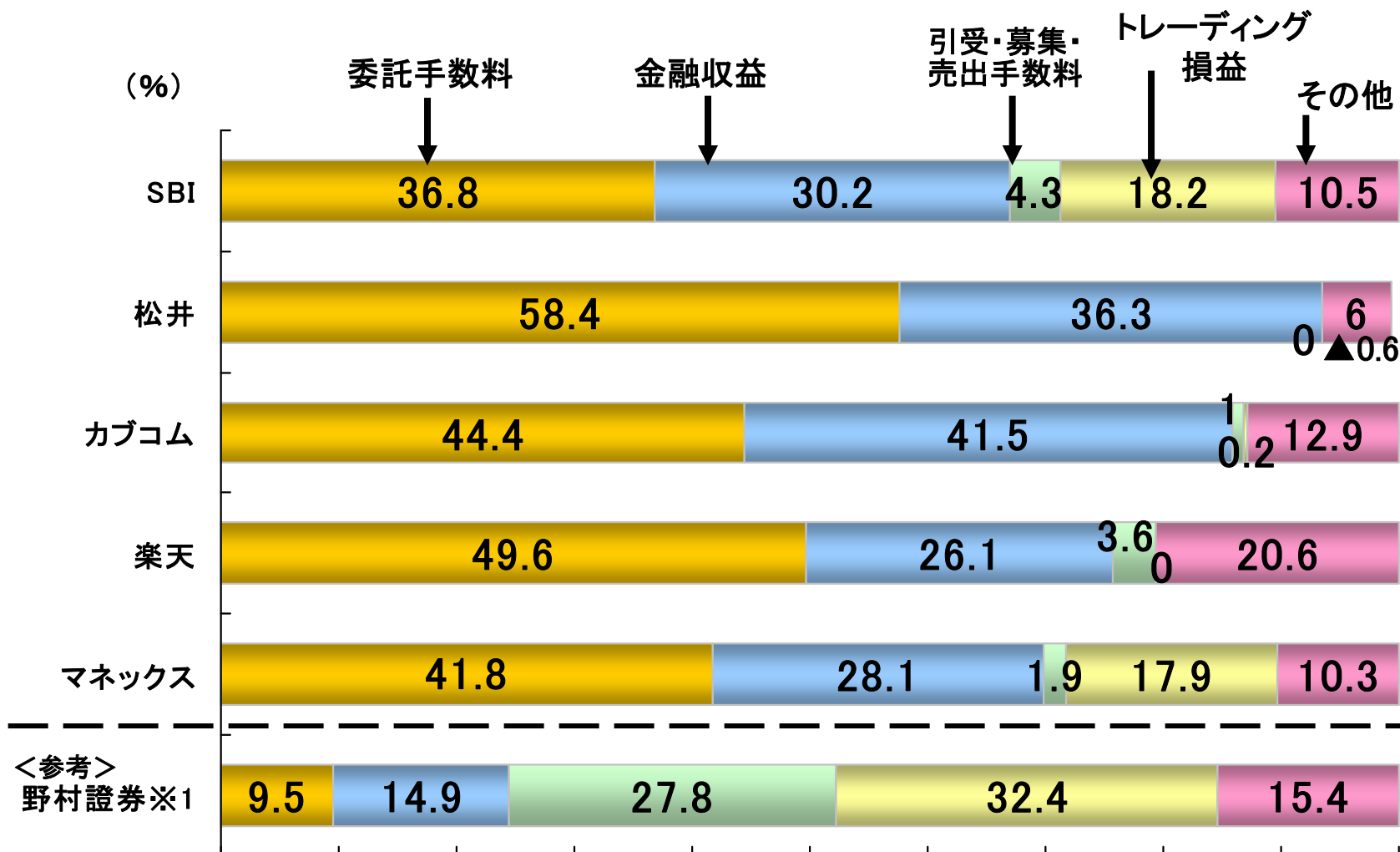
(8)販売費・一般管理費

■ リース料などの不動産関係費を大幅削減し、前年同期比で1.6%のコスト削減。



1. 決算概況

(参考) 主要オンライン証券各社 営業収益(連結) 構成比



※出所: 各社ホームページ、決算資料(野村証券は国内基準の決算書より抽出)

※1 2012年3月期1Qの数値

2. 2012年3月期上半期の主な取組み

2. 今期の主な取組み

(1) 2012年3月期上半期の主な取組み

実施月	取組み内容
4月	「SBI FX α 共同義援金プロジェクト」実施 「HDR(香港預託証券)」の取扱い開始
5月	「HYPER SBI Ver2.0」無料ご利用条件緩和実施 「人民元建中国国債(既発)」の取扱い開始 「EXPRESS口座開設」サービス開始 「IOC注文」サービス開始 外国株式取引口座の開設までの期間短縮実施 投信「トリプルブルベア」受注締切時間延長(13:00→14:50)を実施
6月	インターネット証券4社 専用投資信託 第1号ファンド募集開始 「即時口座開設・即日インターネット取引」サービスの受付をSBIフィナンシャルショップ株式会社で開始 「SOR注文」サービス開始 インターネット証券4社 専用投資信託 第2号ファンド募集開始 Android向け株取引アプリ「SBI株取引 for Android」提供開始 MRF新規買付停止

2. 今期の主な取組み

(1) 2012年3月期上半期の主な取組み

実施月	取組み内容
7月	インターネット証券4社 専用投資信託 第3号ファンド募集開始(平成23年7月) 外国為替保証金取引「SBI FX α 」主要通貨ペアのスプレッド大幅縮小実施(平成23年7月) 生命保険の取扱商品大幅拡充実施(平成23年7月) iPhone向けFX取引アプリ「SBI FX α for iPhone」提供開始(平成23年7月)
8月	Android向けFX取引アプリ「SBI FX α for Android」提供開始(平成23年8月) 「ETN」の取扱い開始(平成23年8月)
9月	MMF・中期国債ファンドのインターネットでの取扱い開始(平成23年9月) 海外ETF検索ツール「Eサーチ」提供開始(平成23年9月) 「セキュリティキーボード」の提供開始(平成23年9月)

3.今後の主な取組み

3. 今後の主な取組み

(1) 取扱商品・サービスを拡充し、サポートを充実①

1. 常に業界最高水準のサービスを追求！！

＜常に業界最高水準のサービスを追及するため各サービスの取引条件を改善！＞

■ 外国為替保証金取引「SBI FX α」主要通貨ペアのスプレッド大幅縮小(2011年7月)

→ スプレッドの大幅縮小と全通貨ペアのスプレッドを原則固定化を実施



■ 貸株金利の銘柄毎個別設定開始(2011年10月)

→ 1.0%以上(年率)の貸株金利がつくプレミアム銘柄を最大50銘柄設定する等個別設定を開始

■ 「現物も！信用も！ダブルで株取引手数料大幅割引キャンペーン」実施(2011年10月)

→ 信用残高2,000万円以上のお客様の現物・信用の取引手数料を大幅に割引。



今後も一層業界最高水準のサービスを追及！！

3. 今後の主な取組み

(1) 取扱商品・サービスを拡充し、サポートを充実②

2. 取扱商品・サービスの拡充

商品の拡充

- 「人民元建中国国債(既発)」の取扱い開始(2011年5月)
- インターネット証券4社 専用投資信託の取扱い開始(2011年6月)
- 生命保険の取扱商品大幅拡充(2011年7月)
- 「ETN」の取扱い開始(2011年8月)



・株式市場が低迷する中、引き続き投資信託、債券、外国株式、FX等の商品の拡充を行うとともに、下半期においては、上半期に大幅に商品を拡充した生命保険の販売を強化し、さらなる収益の多様化を図る。

サービスの拡充

- EXPRESS口座開設(2011年5月)
- SOR注文サービス開始(2011年6月)
- 外国為替保証金取引「SBI FX α」主要通貨ペアのスプレッド大幅縮小実施(平成23年7月)
- iPhone向けFX取引アプリ「SBI FX α for iPhone」提供開始(平成23年7月)
- Android向けFX取引アプリ「SBI FX α for Android」提供開始(平成23年8月)



・取引拡大のために、取引条件緩和、取引ツール、注文方法等のサービス拡充を一層推進。

・口座開設手順の簡略化、口座開設チャネルの拡大を図り、新規顧客のさらなる獲得を行う。

3.今後の主な取組み

(2)「顧客中心主義」の実践から「リテールNo.1証券」の実現に向けて①

「顧客中心主義」の実践

「業界最低水準の手数料」
「豊富な取扱商品」

地域密着の店舗展開

日本初の「尊敬していただける証券会社」へ

新しい投資スタイルの提案

ワンストップでの商品提供
「SBIマネープラザ構想」

「リテールNo.1証券」の実現

3. 今後の主な取組み

(2) 「顧客中心主義」の実践から「リテールNo.1証券」の実現に向けて②

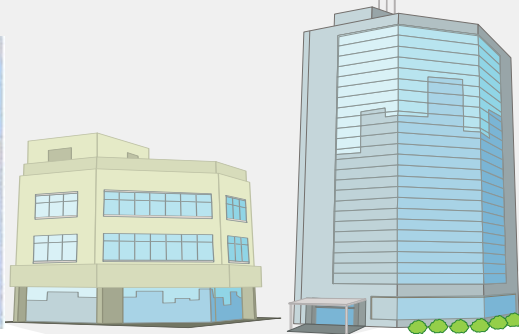
＜店舗戦略＞仲介業を積極的に活用した「地域密着型」の営業

店舗数について
＜2011年9月末＞

SBI証券直営支店：23店舗



対面型仲介業店舗数：154店舗（※）
（※「SBIマネープラザ/SBI住宅ローンショップ」店舗数）



SBI証券のみでの店舗展開



SBIフィナンシャルショップ、SBIモーゲージ、
その他 仲介業者の活用

金融商品に加え、グループ商品の
クロスセル（住宅ローン、保険等）を行う。



3.今後の主な取組み

(2)「顧客中心主義」の実践から「リテールNo.1証券」の実現に向けて③

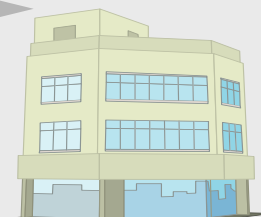
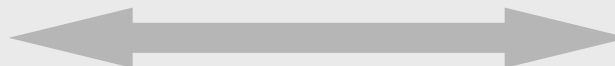
<営業戦略>顧客の特性に応じたサービス提供

顧客層に応じたアプローチでサービスを提供

■ 1対多数の情報発信や来店対応による顧客満足向上



■ 仲介業者との関係構築・サポート



■ 1対1の投資相談



■ 金融商品仲介業者

マス顧客層

マス富裕層

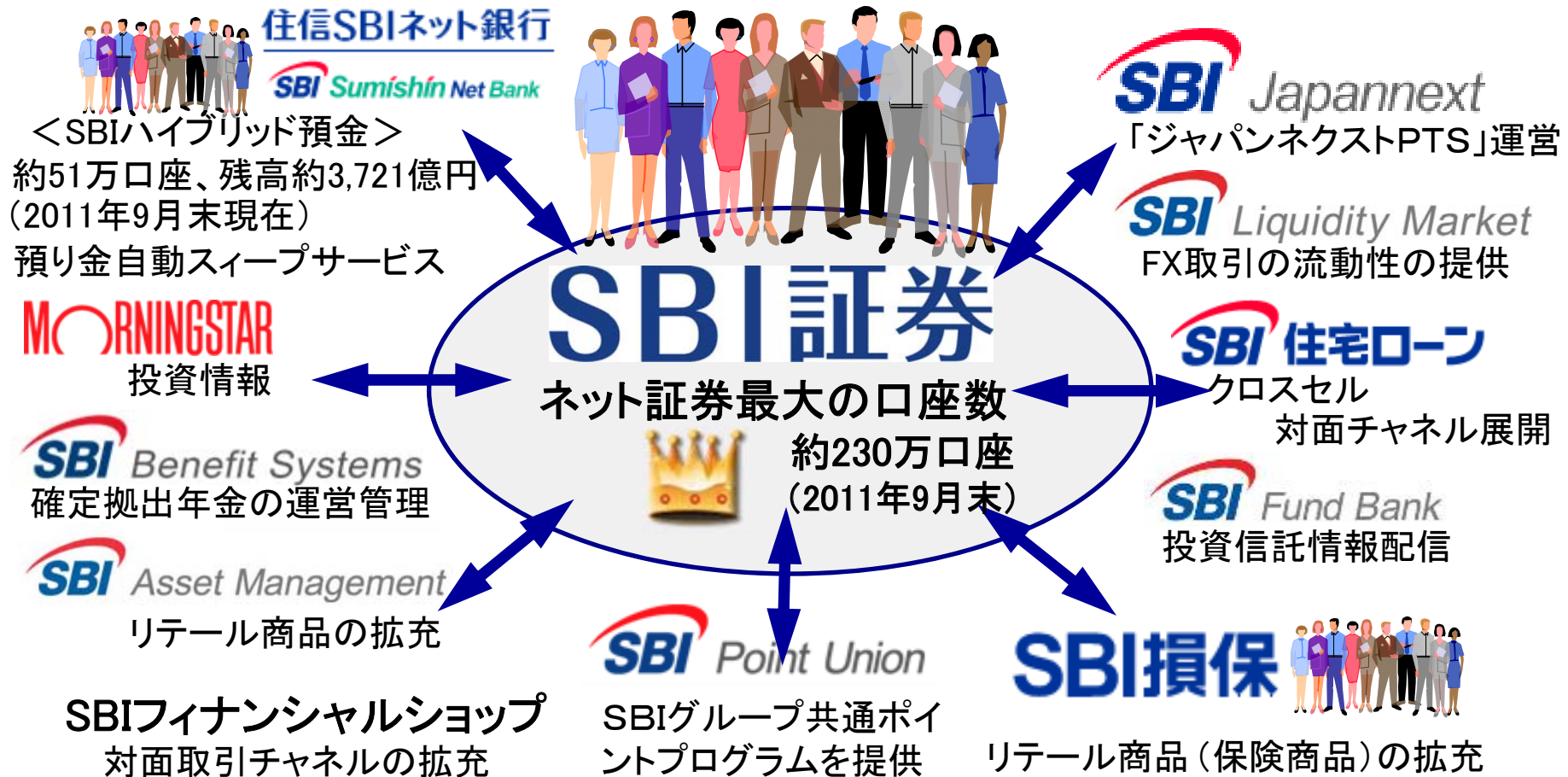
富裕層

資産額

3.今後の主な取組み

(2)「顧客中心主義」の実践から「リテールNo.1証券」の実現に向けて④

＜シナジーの追求＞SBIグループのリソースを活用した、シナジー効果の活用
グループ内外のシナジー効果を最大限発揮し、さらに事業基盤を拡大



ワンストップで証券業以外の金融商品・サービスを提供し、顧客の利便性を向上

<http://www.sbisec.co.jp>

金融商品取引法に係る表示

《国内株式等現物取引》

国内現物株式、ETF(上場投資信託)・ETN(指標連動証券)・REIT(不動産投資信託)
・証券投資法人等の受益証券、新株予約証券、優先出資証券等の取引手数料です。

■ 国内株式等委託手数料(上限)

・インターネット取引(モバイル端末・IVRシステム取引含む)

▶スタンダードプラン

スタンダードプランは1注文の約定代金に応じて手数料が決まる手数料体系です。

1注文の約定代金	委託手数料(税込)
10万円以下の場合	145円
10万円を超え20万円以下の場合	194円
20万円を超え50万円以下の場合	358円
50万円を超え100万円以下の場合	639円
100万円を超え150万円以下の場合	764円
150万円を超え3,000万円以下の場合	1,209円
3,000万円を超える場合	1,277円

▶アクティブプラン

アクティブプランは1日の約定代金合計額に応じて手数料が決まる手数料体系です。

1日の約定代金合計額	委託手数料(税込)
10万円以下の場合	100円
10万円を超え20万円以下の場合	200円
20万円を超え30万円以下の場合	300円
30万円を超え50万円以下の場合	450円
50万円を超え100万円以下の場合	800円
	以降、約定代金合計金額 100万円増毎 +420円

※ 新規に口座開設されたお客様は、プランの変更をされるまでは「スタンダードプラン」となります。
※ アクティブプランでは「国内株式等現物取引」、「国内株式等制度信用取引」、「国内株式等無
期限(一般)信用取引」の「約定代金合計額」・「手数料」は各々別口として計算いたします。
※ 成行・指値・逆指値の区分及び執行条件にかかわらず同じ手数料体系となります。
※ コールセンターでのご注文は、1日の株式約定代金合計額の対象となりません。
※ 詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

・ コールセンター取引手数料

1注文の約定代金	委託手数料(税込)
50万円以下の場合	2,100円
50万円を超え100万円以下の場合	3,780円
100万円を超え150万円以下の場合	4,620円
150万円を超える場合	6,720円

■ PTS取引手数料(インターネット・モバイル端末・IVRシステム取引)(上限)

1注文の約定代金	委託手数料(税込)
10万円以下の場合	138円
10万円を超え20万円以下の場合	184円
20万円を超え1,000万円以下の場合	340円
1,000万円を超え2,000万円以下の場合	559円
2,000万円を超え3,000万円以下の場合	958円
3,000万円を超える場合	1,197円

金融商品取引法に係る表示

■ 単元未満株(S株)手数料(上限)

・インターネット取引(モバイル端末・IVRシステム取引含む)

1 注文あたりの約定代金×0.525%(税込)(最低手数料:52円(税込))

※ 売却の約定代金が52円(税込)未満の場合は、全額が手数料・消費税となり受渡代金は「0円」となります。

・コールセンター取引

1 注文あたりの約定代金×6.3%(税込)(最低手数料:2,100円(税込))

※ 売却の約定代金が2,100円(税込)未満の場合は、全額が手数料・消費税となり受渡代金は「0円」となります。

※ コールセンターでの単元未満株(端株)の「買取請求」「買増請求」の手数は、1銘柄あたり525円(税込)となります。

■ 新規上場、株式公募・売出し、立会外分売手数料

株式を募集、売出し、立会外分売により取得する場合には、購入対価のみお支払いいただくこととなります。

＜外国株式等＞

外国株式及び、海外ETF(上場投資信託)等の受益証券等の取引手数料です。

■ 米国株式手数料<インターネット取引>(上限)

1注文あたりの株数	委託手数料(税込)
1,000株以下の場合	26.25米ドル
1,000株を超える場合	1株毎に2.1セント追加

■ 中国株式手数料(インターネット取引)(上限)

1注文あたりの約定代金×0.273%(税込)

(最低手数料:49.35香港ドル(税込)、上限手数料:493.5香港ドル(税込))

■ 韓国株式手数料(インターネット取引)(上限)

1注文あたりの約定代金×0.945%(税込)

(最低手数料:9,450韓国ウォン(税込))

■ ロシア株式手数料(インターネット取引)(上限)

1注文あたりの約定代金×1.26%(税込)

(最低手数料:525ルーブル(税込))

■ ベトナム株式手数料(インターネット取引)(上限)

1注文あたりの約定代金×2.1%(税込)

(最低手数料:1,260,000ベトナムドン(税込))

＜債券手数料＞

■ 債券手数料<インターネット、コールセンター取引>

債券を購入する場合は、購入対価のみお支払いいただくこととなります。

外貨建て債券の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。

■ 転換社債型新株予約権付社債<コールセンター取引>(上限)

約定代金	委託手数料(税込)
100万円未満	4,200円
100万円以上	約定代金の0.42%

＜投資信託＞

・株式投資信託等は、申込手数料が基準価額に対して最大3.675%(税込)、信託報酬は純資産額に対して、最大年率3.0041%(税込)、信託財産留保額は買付時の基準価額に対して最大6.0%、換金時の基準価額に対して最大1%(非課税)。その他詳細は各商品の目論見書をご確認下さい。投資信託(ファンド)の手数はファンドにより異なります。

・外貨建MMFを購入する場合、購入対価のみお支払いいただくこととなりますが、購入に伴う為替取引には所定の為替手数料がかかります。

＜外国為替保証金取引＞

無料(ただし、SBIFXミニ取引の場合は1取引あたり100円、現引き不可となります。)

＜CFD＞

無料

＜先物取引＞

日経225	1枚 525円(税込)
ミニ日経225	1枚 52.5円(税込、1円未満切捨)
オプション取引	売買代金の0.21%(税込) 最低手数料210円(税込)

＜カバードワラント＞

無料

金融商品取引法に係る表示

《その他の費用》

サービス		費用等(税込)
口座開設料 管理料	証券総合口座	無料
	外国証券取引口座	
	特定口座	
	外国株式取引口座	
	外国為替保証金取引口座	
	先物・オプション取引口座	
	CFD取引口座	
	カバードワラント取引口座	
	信用取引口座	
国内株券等入庫	券面・移管	無料
外国株券等入庫	移管	無料
その他の有価証券の入庫	移管	無料
国内株券等出庫	券面(郵送)	1銘柄につき1,050円(上限)
	移管	無料
外国株券等出庫	移管	無料
その他の有価証券の出庫	移管	1銘柄につき1,050円(上限)
名義書換等の手続き代行	名義書換手数料	1銘柄につき10単元までは525円、 10単元以上1単元増すごとに52.5円加算、上限10,500円
株主事務関係	個別株主通知	1銘柄につき3,150円(上限)
	新株予約権付社債の株式への転換	額面100万円まで588円、100万円増すごとに63円
	新株予約権証券の新株予約権の行使	無料
	単元未満株式の買取・買増請求	1銘柄につき525円(上限)
	配当金の振込先指定(株式数比例配分方式・登録配当金受領口座方式・個別銘柄指定方式)	無料
	振替口座簿記録事項証明書(お客様による請求)	半期(3・9月)毎につき1,050円(上限)
	振替口座簿記録事項証明書(利害関係人による請求)	半期(3・9月)毎につき2,100円(上限)

※ 外国株式、海外ETF等の売買、償還等にあたり円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向を踏まえて、当社が決定した為替レートによるものとします。為替レートの詳細につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。(2011年3月現在)

金融商品取引法に係る表示

国内株式 現物取引

- ・株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。

国内株式 信用取引

- ・信用取引の委託保証金は、売買代金の33%以上で、かつ30万円以上が必要です。
- ・信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失が発生する可能性を有しています。
- ・信用取引の対象となっている株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差し入れた委託保証金額を上回るおそれがあります。

新規上場/公募増資・売出株式/立会外分売/単元未満株

- ・株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。

外国株式

- ・株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- ・外国株式は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

外国為替保証金(FX)

・外国為替保証金取引(SBI FX α)は、1取引単位は1万～1,000万通貨単位で、必要保証金は取引金額に下記のレバレッジコース毎の保証金率を乗じた金額になります。「ローレバレッジ1倍コースの保証金率は100%」「ローレバレッジ3倍コースの保証金率は33%」「ローレバレッジ5倍コースの保証金率は20%」「スタンダードコースの保証金率は10%」「ハイレバレッジ25コースの保証金率は4%(※)」「ハイレバレッジ50コース(法人口座限定)の保証金率は2%(※)」「ハイレバレッジ100コース(法人口座限定)の保証金率は1%(※)」「ハイレバレッジ200コース(法人口座限定)の保証金率は0.5%(※)」(個人のお客様は、必要保証金の額の約1倍～25倍の取引、法人口座のお客様は、必要保証金の額の約1倍～約200倍の取引が可能です。)※ 高レバレッジ取引の可能な通貨ペアは原則として当社が指定する主要通貨ペアに限定されます。・外国為替保証金取引(SBI FX ミニ)は、1取引単位は1,000～1万通貨単位で、必要保証金は取引金額に保証金率10%～100%を乗じた金額になります。(必要保証金の額の約1倍～約10倍までの取引が可能です。)・本取引は元本及び利益が保証されるものではありません。・本取引は、取引額(約定代金)に対して少額の必要保証金をもとに取引を行うため、必要保証金に比べ多額の利益を得ることもありますが、その一方で短期間のうちに多額の損失を被る可能性があります。・本取引は、通貨等の価格又は金融指標の数値の変動により損失が生ずるおそれがあり、かつその損失の額が預託した保証金の額を上回ることがあります。・ハイレバレッジ100コース(法人口座限定)及びハイレバレッジ200コース(法人口座限定)には決済期限があります。毎週末最終営業日の取引時間終了時点(夏時間午前5:30、冬時間午前6:30)の15分前からお客様の保有建玉は順次強制的に決済されるため、意図せざる損失を被るおそれがあります。・スワップポイントは金利情勢の変化等により変動しますので、将来にわたり保証されるものではありません。・取引レートは2Way方式で買値と売値は同じでなく差があります。

投資信託

- ・投資信託は、主に国内外の株式や債券等を投資対象としています。投資信託の基準価格は、組み入れた株式や債券等の値動き、為替相場の変動等により上下しますので、これにより投資元本を割り込むおそれがあります。
- ・投資信託は、個別の投資信託毎にご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。ファンド・オブ・ファンズの場合は、他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております(投資対象ファンドの変更等により、変動することがあります)。
- ・ご投資にあたっては、目論見書や契約締結前交付書面をよくお読みください。

債券

- ・債券の価格は、市場の金利水準の変化に対応して変動しますので、償還前に換金する場合には、損失が生じるおそれがあります。
- ・外国債券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

金融商品取引法に係る表示

CFD

・ CFD取引に際して預託すべき必要保証金の額および取引金額の当該保証金の額に対する比率は取引金額の10% (取引保証金の額の約10倍のお取引) であり、CFDの取引金額が当該保証金の額を上回る可能性があります(※)。※CFD価格の変動に応じて上記の必要保証金の額は変動いたしますのでご注意ください。・ CFD取引は元本及び利益が保証される取引ではありません。・ CFD取引は、原資産となる国内外の株式、株価指数、株価指数先物、債券先物、商品先物、商品現物の価格を参照して行う取引であり、当社が提示するCFD価格の変動により損失が生じるリスクがあります。また、本取引は保証金取引であり、お客様の差入れた受入保証金の額に比して取引金額が大きいため、CFD価格の変動により、その損失の額が差入れた受入保証金の額を上回り、元本を超過して損失を被るリスクがあります。・ CFD取引は、国内外に上場する株式、世界の主要な市場の株価指数、世界の主要な市場に上場する株価指数先物、債券先物、商品先物及び商品現物の価格を指標として行われる取引であり、当社が提示するCFD価格はかかる指標を参照して決定されるため、お客様はかかる指標変動を直接の原因として損失を生じるリスクがあります。また、本取引は保証金取引であり、お客様の差入れた受入保証金の額に比して取引金額が大きいため、係る指標の変動により、その損失の額が差入れた受入保証金の額を上回り、元本を超過して損失を被るリスクがあります。・ CFD取引において、当社が提示するCFD価格には売付けの価格と買付けの価格に差(スプレッド)があります。・ 株価指数先物CFD、債券先物CFD、商品先物CFDには限月(決済期限)があります。最終売買日の取引時間終了までに決済されなかったお客様のポジションは、最終売買日の清算値を参考としたレートにより強制的に決済されます。・ CFD取引では、金利調整額や配当金調整額等の受払いが発生することがあり、損失を被るリスクがあります。・ CFD取引にかかるご注意事項は上記に限られません。取引の際にはCFD取引の契約締結前交付書面やCFD取引約款などのお客様向け書面をよく読み、取引の仕組みや危険性について十分に理解された上でお取引ください。

商号等 株式会社SBI証券 金融商品取引業者 商品先物取引業者

登録番号 関東財務局長(金商)第44号

許可番号 農林水産省指令22総合第1352号、経済産業省平成22・12・22商第6号

加入協会 日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会

商品CFD取引(店頭商品デリバティブ取引)に関する苦情・ご相談は、下記の窓口にて承っております。

・ 日本商品先物取引協会 相談センター

電話番号: 03-3664-6243 東京都中央区日本橋小網町9-4

・ SBI証券 カスタマーサービスセンター

電話番号: 0120-104-214 (携帯電話・PHSからは03-5562-7530をご利用ください。) 東京都港区六本木1-6-1

当社の企業情報は、当社店頭及び当社ホームページ並びに日本商品先物取引協会のホームページで閲覧できます。

金融商品取引法に係る表示

先物・オプション

・必要証拠金額は当社SPAN証拠金×1.0(100%)－ネットオプション価値(Net Option Value)の総額となります。・当社SPAN証拠金及びネットオプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定毎に再計算されます。また、取引所の規制等又は当社独自の判断によって変更されることがあります。・現在のSPAN証拠金についてはこちら(大阪証券取引所WEBサイト)・株価指数先物(日経225先物・ミニ日経225)の価格は、対象とする株価指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分又はそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、株価指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。・株価指数オプション(日経225オプション)の価格は、対象とする株価指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。尚、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うことになります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化した場合には損失が限定されていません。また、株価指数オプション取引は、市場価格が現実の株価指数に応じて変動いたしますので、その変動率は現実の株価指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。

eワラント

・eワラント(カバードワラント)は、対象原資産である株式・株価指数、投資証券(REIT)、預託証券、国債先物、通貨(リンク債)、コモディティ(リンク債)の価格変動、時間経過(一部の銘柄を除き、一般に時間経過と共に価格が下落する)や為替相場(対象原資産が国外のものの場合)など様々な要因が価格に影響を与えるので、投資元本の保証はなく、投資元本の全てを失うおそれがあるリスクの高い有価証券です。また、対象原資産に直接投資するよりも、一般に価格変動の割合が大きくなります(ただし、eワラントの価格が極端に低い場合には、対象原資産の値動きにほとんど反応しない場合があります)。・ニアピンeワラント(カバードワラント)は、対象原資産である株価指数や為替相場の変動や、時間経過(同日内を含む)等、様々な要因が価格に影響を与えるので、元本の保証はなく投資元本のすべてを失うおそれがあるリスクの高い有価証券です。また、対象原資産に直接投資するよりも、一般に価格変動の割合が大きくなります。最大受取可能額は1ワラント当たり100円に設定され、満期参照原資産価格がピン価格から一定価格以上乖離した場合は満期時に価格がゼロになります。同一満期日を持つ全ての種類のニアピンeワラントを購入されても、投資金額の全てを回収することができない可能性があります。・トラッカーeワラント(カバードワラント)は、対象原資産である株価指数、通貨(リンク債)、コモディティ(リンク債)の価格変動や為替相場(対象原資産が国外のものの場合)など様々な要因が価格に影響を与える有価証券です。このため、投資元本の保証がなく、損失が生じる恐れがあります。トラッカーeワラントの価格は、eワラントに比べると一般に対象原資産の価格により近い動きをしますが、任意の二時点間において対象原資産の価格に連動するものではありません。また、金利水準、満期日までの予想受取配当金及び対象原資産の貸株料等の変動によって、対象原資産に対する投資収益率の前提が変化した場合には、トラッカーeワラントの価格も影響を受けます。詳細は、最新の外国証券内容説明書をご参照ください。・取引時間内であっても取引が停止されることがあります。・お客様の購入価格と売却価格には価格差(売却スプレッド)があります。

金融商品取引法に係る表示

上場カバードワラント

・上場カバードワラントの価格は、対象指標とする上場有価証券の価格や金融指標、あるいは時間の経過等により上下しますので、これにより損失が発生することがあります。・上場カバードワラントの発行者の信用状況の変化等、償還金が支払われないこと等により損失が発生することがあります。・上場カバードワラントの価格は、対象指標の市場価格等に応じて変動しますが、売買最終日までの時間的価値を有する金融商品ですので、その変動率は対象指標の市場価格等に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては投資元本全額を毀損する可能性があります。・市場の状況によっては、意図したとおりに取引ができないことがあります。例えば、市場価格が制限値幅に達したような場合、取引ができないことがあります。・市場の状況によっては、金融商品取引所が制限値幅を拡大することがあります。その場合、1日の損失が予想を上回ることもあります。・上場カバードワラントの対象指標となる上場有価証券が金融商品取引所から上場廃止の決定を受けた場合又は株式移転を実施する等により、上場カバードワラントを上場する金融商品取引所が定める上場カバードワラントの上場廃止基準に該当したときは、上場カバードワラントが上場廃止となります。・上場カバードワラントの対象指標となる株価指数等の金融指標が算出停止となる場合で、上場カバードワラントを上場する金融商品取引所が定める上場カバードワラントの上場廃止基準に該当したときは、当該金融指標を対象とする上場カバードワラントが上場廃止となります。・これらの場合、売買最終日が前倒しされるため、時間的価値が失われ、上場カバードワラントの価格が当初予想より低い価格でしか売却できず、損失を被ることがあります。または、売買の機会が失われることがあります。

商号等:株式会社SBI証券(金融商品取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会